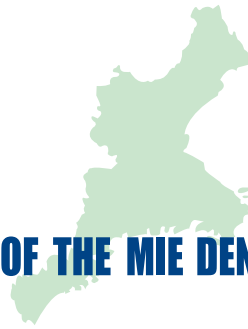




THE REPORT OF THE MIE DENTAL ASSOCIATION



◆第19回三重県歯科保健大会

シンポジウム「がん治療を支える歯科医療」

◆平成26年度東海信越地区役員連絡協議会

◆平成26年度マウスガード講習会

◆第6回かむかむクッキングコンクール



三 重 県 歯 科 医 師 会 報



公益社団法人
三重県歯科医師会
<http://www.dental-mie.or.jp/>

2014 2015
12 1
No. 671

年頭にあって 公益社団法人三重県歯科医師会会長 田所 泰	1
年頭所感 公益社団法人日本歯科医師会会長 大久保満男	2
第19回三重県歯科保健大会	4
表 彰	10
第6回かむかむクッキングコンクール審査結果	12
みえ歯ートネット通信（第31回日本障害者歯科学会総会及び学術大会）	15
障害者歯科センター診療状況	15
平成26年度東海信越地区歯科医師会役員連絡協議会	16
平成26年度マウスガード講習会	20
平成26年度歯科衛生士復職支援講習会	23
平成26年度社会保険指導者研修会	24
名古屋国税局管内税務指導者協議会	27
平成26年度第7回理事会（医療介護総合確保基本方針に沿って協議）	28
平成26年度第4回郡市会長会議（警察歯科の今後の体制について協議）	30
平成26年度第8回理事会 （警察歯科／郡市会災害担当も交えた研修も併催）	34
医療管理（国税局個人課税課から会員に対する適正申告の指導について）	36
10月・11月会務日誌	38
会員消息／新入会員プロフィール	40
告 知 板（平成26年度 介護予防講演会）	42
会員の広場（第39回睦寿会総会・親睦会開催）	43
互助会の現況	44
平成26年6月・7月診療分歯科診療報酬状況	44
三重県歯科医師国民健康保険組合	46
編集後記	48

New Year Message 2015

Mie Dental Association chairman Yasushi Tadokoro

年頭にあたって

公益社団法人 三重県歯科医師会 会長 田所 泰



新年明けましておめでとうございます。すがすがしい新年を迎え皆様方に謹んでお慶び申し上げます。

会員の皆様におかれましては、日頃より三重県歯科医師会事業にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

団塊の世代が75歳以上になる2025年には、3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上となる超高齢化社会を迎えようとしています。このような中で、(1)持続可能な社会保障制度を維持するため地域において効率的かつ質の高い医療提供体制を構築すること (2)住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムを構築することの二つを柱とする医療介護総合確保推進法が昨年6月に成立しました。

一方、私たちの担当する歯科医療の位置付けも、従来のような蝕・歯周病の予防・治療、あるいは修復や補綴等による歯・口腔の形態を回復する医療から、食べる・会話する・表情を創り出すという口腔機能を回復し、これを生涯にわたって維持することを支援する医療へと移行しつつあります。まさにこうした時期に、三重県においていち早く後期高齢者歯科健診を実施できたことは大きな喜びとするところです。この健診事業において、従来の歯周病検診等とは異なり、健診項目に口腔機能の評価を含めたことは、まさにこうした変化を反映したものです。今年度の結果を踏まえ、さらに有益な事業へと発展させることにも力を注ぎたいと考えています。

地域包括ケアシステムの構築に際しても、このような歯科保健・歯科医療の変化を踏まえながら、歯科に求められる役割をしっかりと果たすことができるよう努めなければなりません。一口に地域包括ケアシステムへの参画と言っても、三重県下には様々な地域がありそれぞれの医療・介護資源も一定ではありません。従って県下全都市歯科医師会が同一步調で進むことは難しいと予想されます。県歯科医師会としては、県行政当局と密接な連携を取りつつ、「地域包括ケアシステムにおけるあるべき歯科の姿」を提示しながら、地域の実情に沿ったシステムの構築を支援します。私は「地域包括ケアシステム」において、医療ニーズと介護ニーズを併せ持つ高齢者を地域で確実に支えていくには訪問歯科診療、訪問口腔ケアの充実が第一歩になると考えています。少しでも多くの会員の皆様が、できる範囲で訪問歯科診療、訪問口腔ケアに取り組まれることを期待しています。

ここまで述べた高齢化社会に対応する事業の他にも、解決すべき課題は数多く存在します。まず、現行の三重県警察医会が今年3月に発展的解消となることから、大規模災害等への対応も含めた警察等との新たな協力体制を構築する必要があります。また、がん治療医科歯科連携事業をはじめ、日々の診療においても、医科の先生方をはじめ多くの医療関係職種の方々との連携がますます必要となってきます。県歯科医師会としては、一人の歯科医師あるいは歯科診療所だけでは対応が難しい問題に対して、できる限り支援するように努めます。会員の皆様の福祉厚生の向上と安定した診療所の経営のためのきめ細かい対策を図りつつ、併せて、必要な歯科医療従事者の確保・養成という視点から、各職種の資質向上のための研修事業及び良好な勤務環境の確保のための施策も行います。

本年が、皆様方にとりましてより良き年でありますことを祈念いたしまして新年のご挨拶といたします。

New Year Message 2015

Japan Dental Association chairman Mitsuo Okubo

年頭所感

公益社団法人 日本歯科医師会 会長 大久保満男



新年あけましておめでとうございます。先生方におかれましては、お健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

すでにご承知のことと存じますが、私は、この6月の代議員会をもって日本歯科医師会会長職を辞することと致しました。思えば、平成18年4月に先生方のご支持を得て会長に就任して以来、9年の長きにわたって、この重責を何とか果たさせていただきましたことは、ただただ感謝の一語を申し上げるばかりであります。

就任時の平成18年は、歯科界にとって最も厳しい診療報酬改定が行われた年でありました。まずこの改定内容を何とか是正することに全力を尽くすべきとの覚悟で会務を始めたことを、今もはっきりと覚えております。さらに、社会保障抑制策の下で2兆5千億円から全く伸びなかった歯科医療費を何とか増加させることも、同時に取り組むべき大きな課題であると考えました。

ただ、18年度改定も、さらに歯科医療費の増加策も、歯科医師会の単なる「欲張り」と受け止められれば、それは到底実現できないということをはっきりと自覚しておりました。

それは、日歯会長の前に務めた日歯連盟の会長として、連盟改革を実施する中、私達の考えに国会議員から必ず言われた言葉は、「それはどのように国民の健康に貢献するのか」でした。つまり、ただ「これを頼みます」では、もはや我々の考えを具体的な国の政策に乗せることはできないという、考えれば当たり前のことですが、私の考え方の中心に「国民のための歯科医療」という明確な旗を掲げることが、最も大切な我々の政策の根底であり、それが結果として歯科診療所の経営の安定化につながるのだと明確に自覚を致しました。これを、日歯の会長に就任してからの、あらゆる考え方の基盤として参りました。

しかし、このような政策は、即席的に完了するものではありません。時間と忍耐とを必要とし、さらにそれに負けないような知恵を絞り続ける、ある意味辛い道であったと、今振り返ってそう思います。それでもその道を歩くべきだと我々を励ましてくれたのは、その時から次々と提出された「口腔と全身の健康」に関わるコホート研究でした。これがなければ、国民に訴える手段の核がなく、我々は途中で途方に暮れていたのではないかと思います。

さらに、もう一つ掲げた歯科医療の目的は「食」でした。我々は平素の歯科医療を行う時に、つい歯科疾患の治療に神経を使うあまり、勿論それは大切なことであることは間違いのないことですが、その最終的の目的は何なのか。それは、その人が生涯にわたって自分の口から食べられる人生を送ることではないのかと。

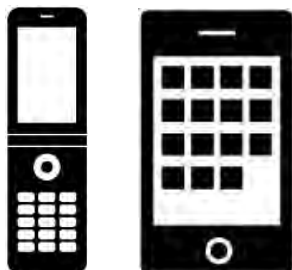
このような政策を、多くの会員が共通の価値とし、日々の診療に従事し、さらに地域歯科医師会の活動に参加していただくことで、明らかに報道機関の姿勢に変化が起きたと思います。テレビや新聞で歯科医療の大切さが多く報じられ、そのための番組が作られたりしました。

さて、昨年の歯科医療費は2兆7千億円を超えました。この要因の詳細な分析はまだですが、一つだけ明らかなことは、患者数の増加です。口の中の病気は命とほとんど関係なく、少し酷くなったら行けば良い。そうではなくて、「自分の口で食べられる幸せのために、酷くなる前に歯科医院を訪れよう」。こんな考えが、国民の中に当たり前のよう広がっていく、今年がそんな年であつたらと願っております。

会長として、これが最後の新年のご挨拶となりますが、6月までは全力で会長職を務めて参りますので、よろしくお願い申し上げます。

◎三重県歯科医師会会員の皆様へ

いざという時、スマホや携帯で安否情報を伝える！



**三重県歯科医師会では大規模災害発生に
備えた安否確認システムを導入しています。
登録のご協力をお願いします。**

三重県歯科医師会では、大規模災害発生時に会員と本会及び各郡市歯科医師会との連絡手段の一つとして、(株)セコムトラストシステムズが提供する「安否確認サービス（e革新きずな）」を導入しています。このシステムは、メールやWeb、音声電話を利用する双方向の情報伝達・集計システムで、自然災害や新型インフルエンザによるパンデミック等の緊急事態が発生した場合に、「会員・家族の安否確認」や「対策要員の緊急招集」「安否確認後の行動指示」等、初動対応の迅速・効率化に活用されるものです。システムの運用に当たっては、会員の皆様にメールアドレスをご自身で登録していただくことが必要になりますので、ご協力をよろしくお願いします。

登録方法等は三重県歯公式ウェブサイト会員用ページに掲載されていますが、ご不明な点等がございましたら三重県歯科医師会事務局（TEL：059-227-6488）までお問い合わせ下さい。

三重県歯科医師会メールマガジンをご登録下さい



三重県歯科医師会では、会員配布物の「E-MAIL配信登録」を行っています。このシステムは登録者ごとに専用のメールアドレスを割り当て、冊子やポスターを除くほとんどの文書をデータ配信するものです。E-MAIL配信登録者には、併せてメールマガジン（メルマガ）も配信されています。メルマガは毎週水曜日に配信され、三重県歯科医師会事業の最新情報や月間スケジュール、ウェブサイトの更新情報、学術関連情報、さらに毎月の歯科関連ニュースをまとめた「News Clip」等をお届けしています。

E-MAIL配信の登録方法は三重県歯公式ウェブサイト会員用ページをご参照いただくか、三重県歯科医師会事務局（TEL：059-227-6488）までお問い合わせ下さい。また、一度登録してもパソコンの買替時等にメールソフトでのアカウントの移行が行われていないとメルマガが配信されなくなる場合があります。もし、メルマガが届かなくなっている場合には、ご使用のパソコンの設定をご確認下さい。

第19回 三重県歯科保健大会

平成26年11月3日（月・祝）
四日市市文化会館

シンポジウム「がん治療を支える歯科医療」、県民も熱心に聴講



好天に恵まれた11月3日（月・祝）、四日市市文化会館で第19回三重県歯科保健大会が開かれた。主催者として挨拶に立った三重県・鈴木英敬知事は、「みえ 歯と口腔の健康づくり条例」や「がん患者医科歯科連携協定」等をはじめ、県行政と歯科医師会が緊密に連携していることを強調。県民の健康長寿実現に向けた歯科医療・歯科保健のさらなる貢献へ期待を寄せた。式典では「親と子のよい歯のコンクール」「よい歯の児童生徒」「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」「いい歯の8020コンクール」の優秀者、三重県歯科保健文化賞及び歯科衛生功労者知事表彰の被表彰者らが壇上で表彰された。

大会後半にはシンポジウム「がん治療を支える歯科医療」が開かれた。芝田専務理事がコーディネーターを務め、三重大学医学部附属病院・中瀬一則がんセンター長が医師の立場から、国立がん研究センター中央病院・上野尚雄歯科医長が歯科医師の立場から、三重県歯科衛生士会・近田紀子会長が歯科衛生士の立場から、がん治療における歯科の役割を県民に分かりやすく解説するとともに、今後の課題についてそれぞれの見解を示した。歯科衛生士会や歯科技工士会等の展示も賑わいを見せ、特に子ども向け職業体験コーナーが人気を集めた。

Ceremony

冒頭、主催者を代表して三重県歯・田所 泰会長、三重県・鈴木英敬知事、三重県教育委員会・山口千代己教育長がそれぞれ挨拶。田所会長は大会メインテーマ「育み、よりそい、護る」の趣旨について説明するとともに、この日のシンポジウムでがん治療を支援する歯科医療の役割について、より理解が広がることへ期待を寄せた。

鈴木知事は「みえ 歯と口腔の健康づくり条例」や「がん患者医科歯科連携協定」等をはじめ、県行政と歯科医師会が緊密に連携していることを強調し、フッ化物応用推進や児童虐待防止の取組みについても言及。県民にも歯と口の健康についてより多くの知識を得て、健康増進に努めて欲しいと呼び掛けた。



山口教育長は「みえの学力向上県民運動」に取り組む立場から、子どもたちが歯と口の健康について主体的に学べる環境を作り、生活習慣の改善につなげたいと述べた。

Symposium

がん治療を支える歯科医療

コーディネーター
パネリスト

三重県歯科医師会・芝田憲治専務理事
三重大学医学部附属病院・中瀬一則がんセンター長
国立がん研究センター中央病院・上野尚雄歯科医長
三重県歯科衛生士会・近田紀子会長



シンポジウム「がん治療を支える歯科医療」は、三重県歯・芝田専務理事がコーディネーターとして進行役を務めた。

三重大学医学部附属病院の中瀬一則がんセンター長は、医師の立場から「がん医療の現況と医科歯科連携」の演題で講演。冒頭、平成25年12月に

がん登録推進法が成立し、がんの実態を把握する仕組みが法制化されたことを紹介。同法成立後、最初の地域がん登録全国協議会学術集会が26年6月に三重県歯科医師会館を会場に開催されたことも併せて報告した。次いで、24年の日本の死因別死亡数を示し、1位のがん（28.7%）、2位の心疾患（15.8%）は従来通りだったが、この年から肺炎が9.9%に達し、9.7%の脳血管疾患を上回って3位になったことに注目する必要があるとし、三重県内のデータでも経年的に肺炎による死亡の割合が大きくなっていることを指摘。その理由として誤嚥性肺炎が増えたことを挙げるとともに、口腔ケアによって誤嚥性肺炎を40%予防できることを明らかにした米山武義氏の研究を紹介。「医療・介護関連肺炎診療ガイドライン」でも誤嚥性

肺炎の治療方針として「口腔ケアを行う」と明記されていることを示し、口腔ケアの重要性が医師の間でも認知されてきていると述べた。

がん治療に伴う合併症としては、乳がん等の骨転移や多発性骨髄腫の骨病変に対して用いられるビスフォスフォネート系薬剤の投与に伴う顎骨壊死にも言及し、その治療は極めて困難であるため予防が重要であるとし、ビスフォスフォネート系薬剤の投与前には、歯科医師による綿密な診査を行い、保存不可能な歯の抜歯を含め、侵襲的な歯科治療は全て終わらせておくこと、さらに投与前・中・後にわたる継続的な口腔ケアが重要であると説いた。

また、専門である白血病等の造血器腫瘍については、新しい抗がん剤等の開発が進み治療成績が向上している一方で、感染症の制御が課題となっていることを示し、造血幹細胞移植後に感染症に罹患した患者の血液を遺伝子解析したところ、従来考えられていたような腸内細菌だけでなく口腔内細菌も多く検出されたという研究結果を報告。造血器腫瘍治療においても、治療前の口腔ケアによる術後感染症予防の可能性が示唆されるとした。

続いて国立がん研究センター中央病院・上野尚雄歯科医長が歯科医師の立場から「がん治療における歯科医療連携～安全ながん治療と歯科の役割～」の演題で講演した。国立がんセンターで、主治医ががん治療を始める前に患者に歯科を受診するよう指示することがある理由として、がん

治療中の口腔内への副作用の発症頻度に関する米国 国立がん研究所（NCI：National Cancer Institute）のデータを紹介。▽化学療法を受ける患者の40%▽骨髄移植を受ける患者の80%▽口腔周囲に放射線が当たる治療を受ける患者では100%に副作用が発生することを示すとともに、他の臓器にはない口腔の特徴として、▽細菌の発育に適した条件が揃っているために多くの種類の常在細菌が存在する▽無症状でも慢性感染巣を持つ場合がある▽口腔内の細菌はバイオフィルムを形成するため含嗽では減らせない（＝ブラッシングが必要）一等を挙げた。

口腔内の副作用は低栄養や脱水に直結するため、がん治療の中断や抗がん剤の減量を余儀なくされることが少なくない（表1）ことから、がんセンターの歯科では、がん治療中に口腔内に副作用が生じた場合の治療とともに、副作用の再発を防ぐための口腔ケアも継続して行っていること等を症例写真を供覧しながら説明。事前の口腔ケアにより顎骨壊死の予防に努めている例も示された。

がんセンターの歯科の役割としては、全ての虫歯を治療することが目的ではなく、がん治療が安全に行えるよう、口腔ケア等により細菌数・病原性を減少させたり、がん治療中に悪さをしそうな病巣に応急処置を施したりすることが中心になると説明（表2）。初診患者の内訳は、治療開始前の予防的歯科介入が7割、治療中・後のトラブル対応が3割となっており、がん治療前からの歯科

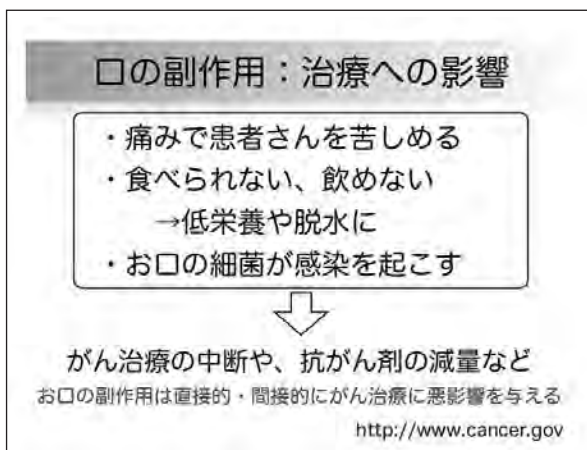


表1

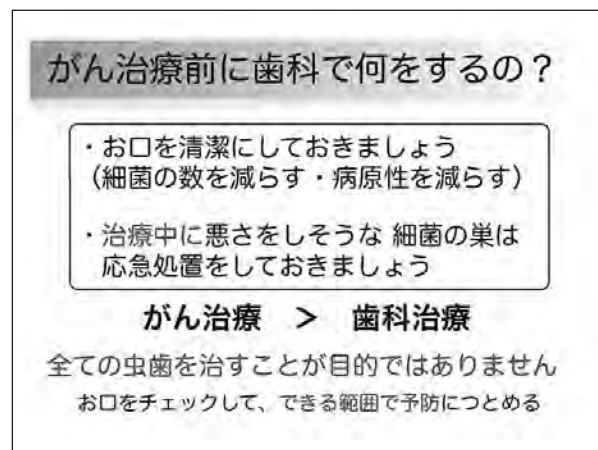


表2

管理により感染症のリスクを大幅に低下させることができることを強調。こうした取り組みを通じてがん治療中にしっかりと口から食事が摂れるように努めていると述べた。

三重県歯科衛生士会の近田会長は、「がん治療現場での歯科衛生士の役割」について講演。がん対策推進基本計画（24年6月）で多職種でのチーム医療やがん治療の副作用・合併症の予防・軽減を目指した医科歯科連携による口腔ケアの推進が謳われていることを挙げ、歯科衛生士は患者が万全の態勢でがん治療に臨むことを支える職種であると位置付けた。さらに患者の口腔衛生状態を改善し、口から食べることによるQOLを維持するための支援に歯科衛生士の日常的な業務がそのまま活かせることを強調するとともに、セルフケアの指導や意識変容を促す働きかけ等、歯科衛生士の保健指導の力量が問われるとの認識も示した。



シンポジウムの後半ではそれぞれの発表者に今後の課題と対策についての提言が求められた。

中瀬センター長は25年3月に策定された「三重県がん対策戦略プラン第2次改訂」で、「医療機関の整備と医療連携体制の構築」の一環として「がん治療における医科歯科連携の推進」が明記されたことを紹介し、これに基づいて三重県での体制整備が行われていると説明した。がんセンターでも医科歯科連携を重視しており、三重大学がんセンターに口腔ケア部門を設置していることを報告した。また、地域がん連携拠点病院及びがん診療連携推進病院で構成する三重県がん診療連携協議会でも歯科からの説明の機会を設ける等、医科側の理解を広げる努力をしているとした。25年

6月に締結された「がん患者医科歯科連携協定」については、全国で初めて行政も含めた協定となったことを高く評価。これを受けて26年3月には、地域住民に向けた市民公開講座で、また医療従事者に向けたがんチーム医療研究会でがん治療と口腔ケアを取り上げる等、周知に向けた取り組みを進めていることも報告。今後もこうした機会を積極的に作っていききたいとした。

上野歯科医長は「がん治療前からの歯科管理の推奨」「がんになっても安心して受診できる地域歯科医院の整備」の2点について提言を行った。

がんセンターでの経験から、▽がん治療中は歯科との縁が切れやすいが、ひとたび縁が切れると口腔内環境はすぐに悪化する▽がん治療中は歯科を受診しても満足な対応ができない場合がある▽口腔内に何かあってからでは遅い場合がある一等を指摘。一方で地域の歯科診療所で定期的な管理を受けていた場合は比較的スムーズに対応できると説明。従来は、がん治療中には歯科治療は二の次と扱われがちであったが、安全で苦痛が少なくがん治療が受けられるように、つまり「がんを上手に治す」ためにこそ歯科管理の優先順位を上げるべきだと説いた。

地域の整備については、歯科口腔保健法の成立（23年）や周術期口腔機能管理の保険収載（24年）、がん対策推進基本計画（24年改訂）等、医療行政も医科歯科連携を後押ししていることを確認したうえで、受け入れ態勢の整備が十分ではないことを指摘。がん患者が治療前に歯科を受診したくても、がん治療に理解のある適切な診療所を探せなかったり、抗がん剤治療中の患者が医療機関に受け入れてもらえなかったりした事例を示し、歯科医療機関が研鑽を積むだけでなく、患者に対しても分かりやすい情報提供が必要であるとした。

近田会長は就業歯科衛生士が歯科診療所勤務に集中している現状を指摘。今後、病診連携や地域連携を視野に入れた幅広い活動が必要であるにもかかわらず、歯科衛生士数が不足していることに對して懸念を示した。

（広報情報委員・井上健三 記）

歯と口の健康週間事業表彰



親と子のよい歯のコンクール（最優秀）
市野幸子さん・英寿くん（松阪市）



よい歯の児童生徒（最優秀）
森井有理さん（伊賀市）

歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール（最優秀）
（左から）【幼稚園】櫻井歩果さん（亀山市）【小学校低学年】寺尾一真くん（鈴鹿市）【中学校】長井楓林さん（鈴鹿市）【特別支援学級】佐々木大翔くん（名張市）



櫻井歩果さん（幼稚園）の作品（写真左上）は中央審査で全国最優秀に選ばれました！

いい歯の8020コンクール表彰



三重県知事表彰
木澤洋子さん（伊賀市）



三重県知事表彰
井戸本壽榮子さん（名張市）



三重県知事表彰
一見孝江さん（朝日町）



三重テレビ放送表彰（おしどり賞）
金澤淑郎さん・久子さん（鈴鹿市）

※ 三重県知事表彰受賞者のうち、森ヒナ子さん、平賀ちゑさん（志摩市）は当日ご欠席でした。



三重県歯科保健文化賞表彰

三重郡学校保健会

三重郡学校保健会は発足以来、歯科衛生に関する各種事業を推進し、児童・生徒や教職員の意識向上に努め、三重郡における学校保健及び学校安全教育の充実に貢献された功績が認められ、今回の表彰となりました。

表彰

2014

厚生労働大臣表彰

中井孝佳先生（尾鷲）



中井孝佳先生は、11月8日（土）に大阪府で開催された第35回全国歯科保健大会の席上、厚生労働大臣表彰を受賞されました。

先生は、県内の介護予防モデル事業を開始したのをはじめ、地域障がい児（者）歯科ネットワーク事業「みえ歯ートネット」の設立や他職種協働による介護予防の基盤整備等、地域住民に対する口腔ケアの提供に多大な貢献をされた他、がん診療医科歯科連携事業を進めるための体制整備等にも尽力されたことから、今回の受賞となりました。

現 三重県歯科医師会副会長

日本歯科医師会長表彰

武田良一先生（伊賀）



武田良一先生は、11月8日（土）に大阪府で開催された第35回全国歯科保健大会の席上、日本歯科医師会長表彰を受賞されました。

先生は、県民の生涯にわたる心身の健康に寄与する質の高い歯科医療を提供するために、地域医療を担う歯科医師等が常に研鑽に務め、その知識・技術を高めるべく関係機関・各種学会等との連携に努めるとともに、その成果を広く県民に還元し、県民のQOL向上に尽力されたことから、今回の受賞となりました。

元 三重県歯科医師会理事

三重県 歯科衛生功労者 知事表彰

11月3日（月・祝）、四日市市文化会館で開催された第19回三重県歯科保健大会の席上で表彰が行われ、近藤豊一先生、竹田耕生先生、村井 皓先生、須川洋一先生が受賞されました。



近藤豊一先生（桑員）

永年にわたり三重県歯科医師会理事として県民の歯科保健衛生の向上に尽力するとともに、学校歯科医として、う蝕の予防や口腔衛生の向上のための活動及び地域の歯科保健衛生の向上と普及に貢献された功績により、今回の受賞となりました。

元 三重県歯科医師会理事



竹田耕生先生（尾鷲）

永年にわたり学校歯科医として地域の児童生徒のう蝕予防、口腔衛生管理等の充実に尽力された他、三重県歯科医師会・尾鷲支部長（当時）として地域住民の健康づくり事業に貢献された功績により、今回の受賞となりました。



村井 皓先生（伊賀）

永年にわたり学校歯科医として、歯科保健衛生の向上と普及に貢献した他、三重県歯科医師会・伊賀支部長（当時）として、学校における口腔衛生の啓発事業等、地域の口腔衛生活動の推進に尽力された功績により、今回の受賞となりました。



須川洋一先生（南紀）

紀宝町の健康まつり実行委員や同町の歯科保健プロジェクトチームの委員として、生涯を通じた歯科保健事業の推進に尽力された他、三重県歯科医師会・南紀支部長（当時）として、地域住民の歯科衛生の向上に貢献された功績により、今回の受賞となりました。

三重県 学校保健功労者 知事表彰

11月20日（木）、御浜町中央公民館で開催された第58回三重県学校保健安全研究大会の席上で表彰が行われ、本会からは山口友宏先生、岸畑安紀先生が受賞されました。



山口友宏先生（伊勢）

永年にわたり、学校歯科医として児童生徒の口腔衛生の普及と向上に尽力された功績により、今回の受賞となりました。



岸畑安紀先生（津）

永年にわたり、学校歯科医として児童生徒のう蝕予防に貢献されるとともに、地域の歯科保健衛生の啓発に努められた功績により、今回の受賞となりました。

公衆衛生事業功労者知事表彰

羽根司人先生（鳥羽志摩）



羽根司人先生は、11月17日（月）に津市内で開かれた平成26年度三重県健康福祉関係功労者感謝のつどいの席上、公衆衛生事業功労者知事表彰を受賞されました。

先生は、平成15年から三重県歯科医師会理事、常務理事を歴任し、県下の公衆衛生事業の普及に取り組み、う蝕の予防と口腔衛生知識の向上に大きな功績を挙げたことから今回の受賞となりました。

現 三重県歯科医師会常務理事

第6回かむかむクッキングコンクール審査結果



平成21年にスタートした三重県と三重県歯科医師会の共催による「かむかむクッキングコンクール」が開催されました。今年度も“よく噛んで食べる「生活習慣病予防料理」”のテーマの下にレシピを募集、小学生から主婦までの幅広い応募者から173作品が寄せられました。9月18日(木)には1次審査として料理写真添付の書類審査を実施(写真)。▽ゆっくりよく噛んで食べるための配慮がされている▽野菜等を多く含み、栄養バランスの

考慮がされている▽生活習慣病予防のために、塩分・脂質の摂り方、調理方法等の考慮がされている一等の6つの応募条件を満たしていることを基準に、審査員による客観的な点数評価が行われ、2次審査に進む20作品を選出しました。次いで2次審査として、10月13日(月・祝)に応募者自身によるプレゼンテーションと審査員による実食審査により、最優秀賞1点と優秀賞2点、特別賞を数点、選出する予定でしたが、台風19号の接近により残念ながら中止に。やむを得ず今年度は1次審査を通過した20作品に優秀賞が贈られることになりました。



野菜もりもり三重come弁当

中村仁美 ゆたか幼稚園栄養士



夏の健康食

小林萌子 鈴鹿短期大学1年



しっかりかんで食べよう!

杉本ルミ子 鈴鹿短期大学1年



海の恵みにありがとう! 定食

西地洋子 鈴鹿短期大学1年



楽しくダイエット!!

濱口みづき 鈴鹿短期大学 1 年



三重発！思い出定食

増田莉子 三重大学教育学部附属中学校 3 年



野菜たっぷりかむかむ定食

一丸恵美 三重県立四日市農芸高等学校 3 年



くるみチャーハンと豆腐サラダと豆のスープ

山田真綾 三重県立四日市農芸高等学校 3 年



三重のシャキシャキ！和洋折衷朝ごはん

川口優希穂 三重県立相可高等学校 1 年



噛んでハツラツ！恩返し定食

濱口風太 三重県立相可高等学校 2 年



噛んで健康 和風定食

野崎栞里 三重県立相可高等学校 2 年



健康スクスク彩やかごはん

氏原茉莉 三重県立相可高等学校 2 年



朝からしっかり定食

吉本梨乃 三重県立相可高等学校 2 年



栄養満点！お母さんの朝ごはん

嶋垣萌恵 三重県立相可高等学校 2 年



秋の香りのかむかむ御膳

河野貴行 三重県立相可高等学校 3 年



夏バテさようなら 元気もりもりの肉まきディナー

藤巻拓斗 朝日町立朝日小学校 3 年



根菜と海の幸のかむかむごはん

吉田安菜 三重県立明野高等学校 3 年



厚揚げハンバーグキノコソースかけ・中華コーンサラダ・野菜と豆腐のスープ

若林紗弥 三重県立久居農林高等学校 2 年



生活習慣病を吹っ飛ばそう！

佐藤美那 三重県立久居農林高等学校 2 年



噛むほどに美味しさUP！健康UP！三重ごはん

岡田公子 会社員



みえ歯ートネット通信

<http://www.dental-mie.or.jp/heartnet/>

from 障害者歯科センター

第31回日本障害者歯科学会総会及び学術大会



11月14日(金)～16日(日)、仙台国際センターで日本障害者歯科学会の第31回総会及び学術大会が開かれ、障害者歯科センターから齋藤センター長ら5名が参加した。開催地は昨年が神戸、今回が仙台となったことから、阪神淡路大震災及び東日本大震災を経て学んだ多くのことを会員と共有し、人口減少・高齢化が加速する被災地での障害者歯科医療の目指す道を共に考えたいとの趣旨で、大会テーマは「3. 11から ～障害者歯科医療の

未来に向けて～」とされた。

学術大会では、特別講演やシンポジウム、公開講座等が企画されたが、「口腔保健センターにおける障害者歯科の現状と今後の展開」と題されたシンポジウムでは、沖縄・長崎・京都・静岡・仙台的5つの口腔保健センターから、開設以来の経過と今後の展望等が報告され参考になった。このシンポジウムを通して浮かび上がった共通の課題は▽常勤歯科医師の有無▽全身麻酔の可否▽協力医ネットワークの活用ーであり、それぞれの口腔保健センターがこれらのハードルをクリアした経緯等が示され、今後の当県の障害者歯科センターのあり方を考えるうえで指針となる内容だった。

なお当センターからは、昨年実施した「みえ歯ートネット」の協力会員へのアンケート調査結果を踏まえた今後の課題についてポスター発表を行った。

(障害者歯科センター長・齋藤 弘 記)

障害者歯科センター診療状況

10月

診療日	8日
診療担当者	常勤1名、非常勤5名 内訳・会員2名、大学3名
延患者数	148名

11月

診療日	7日
診療担当者	常勤1名、非常勤5名 内訳・会員2名、大学3名
延患者数	128名

平成26年度 東海信越地区歯科医師会 役員連絡協議会

平成26年10月4日（土）
ANAクラウンプラザホテル新潟



10月4日（土）、新潟市内で東海信越地区歯科医師会等の役員連絡協議会が開かれた。この協議会は東海信越地区6県の都道府県歯役員が一堂に会するもので、歯科医師国保組合や歯科医師連盟の連絡協議会と合同で開催されており、三重県からも各団体の役員ら20名以上が参加した。会議冒頭には来賓として日歯・大久保会長、日歯連盟・高木会長がそれぞれ挨拶。すでに今期限りで引退を明らかにしている大久保会長は、小泉構造改革から平成16年の日歯連事件に至る歯科界が強烈な逆風にさらされた時期に、まず日歯連盟会長、次いで日歯会長の職を担い、懸命に信頼回復に取り組んできた過程を振り返った。また、日歯からは村上専務理事が、日歯連盟からは峰理事長がそれぞれ会務報告を行った。全体会議終了後には、歯科医師会6分科会及び国保組合、連盟に分かれての協議。各々の課題について長時間にわたる熱心な意見交換が行われた。

第1分科会

時局問題



第1分科会には、日歯・大久保会長、村上専務理事が出席し、▽災害発生時の情報収集▽地域包括ケアシステムへの歯科の関わりー等についての協議を行った。災害発生時の情報収集については、各県ごとに民間企業の活用も含めICTを活用したシステムを構築しているが、その整備状況もシステムの内容もまちまちである。各県から日歯に情報を上げると考えると、日歯が一括でシス

テムを管理し、各県がそのシステムを導入する方が効率的と考えられるが、村上専務からは、現在のところ日歯での一元管理は考えていない旨が説明された。地域包括ケアシステムへの歯科の関わりについては大久保会長からも発言があり、各県・市町で独自の方法を模索していかなければならないが、口腔ケアと歯科医療（キューア）の違いが理解されていない現状の是正や、より重要性を増す医療・介護との連携に向けて歯科に関する認知度の向上を図るためのビジョンの作成に取り組むとともに、団塊の世代が後期高齢者となる2025年に向け、歯科医師会が社会の要請に応えられる体制作りをサポートしていきたいとした。一連の協議を通じて、災害対応にも地域包括ケアへの取組みにも、日歯・都道府県歯・郡市歯の有機的な連携が肝要であることが改めて認識される機会となった。

第2分科会

医療管理・厚生共済



第2分科会には日歯から瀬古口常務理事と島田理事が出席。▽インターネット上の情報発信について～その現状と歯科医院の対策▽歯科衛生士法の一部改正▽歯科衛生士再就職支援▽歯科技工士法の一部改正▽歯科技工士の資格確認▽歯科助手の資格認定▽平成27年10月の消費税率引上げへの対応▽医療安全対策▽未入会者対策ー等について報告があった。

協議では歯科衛生士・歯科技工士需給問題について大きく時間が割かれた。歯科衛生士に関しては各県とも復職支援事業や高校生インターンシップ事業等を行い、歯科衛生士数を確保する努力を行っている。その全てがかんばしい成果を得ているわけではないが、参考になる報告も多かった。歯科衛生士不足については労務問題としてとらえるべきとの指摘もあり、雇用する側である私たち歯科医師が明確な就業規則を作る等、法令を遵守しながらスタッフが安心して働ける環境を作るとともに、歯科衛生士という職種をしっかりと国民に認知させ、仕事のやりがいを持たせることが必要である一等の意見が聞かれた。

歯科技工士に関してはどの県も苦慮している面が多く、歯科技工士学校の閉校とともに歯科技工士不足がより顕著になっている県もあり、今後の大きな課題であると感じられた。

第3分科会

学術



第3分科会には、日歯から中島常務理事が出席した。中島常務理事は地域包括ケアシステムの構築やがん患者医科歯科連携事業等、多職種による医療連携の推進が急務となっており、これらに対応するエビデンス集を来年3月に開催される世界会議で公開する予定であることを明らかにした。また、来年度の日歯生涯研修セミナーでは「訪問診療」と「歯科総合専門医」がテーマとして上がっ

ているとし、「歯科総合専門医」制度は研修医期間を修了した若い歯科医師を対象としたもので、これまでの各学会の専門医とは別のものであるとの見解を示した。さらに、日歯生涯研修事業では能動的研修の比重も高くなってきており、各県歯レベルで学会発表や論文掲載ができる場を提供して欲しいとの要望を示し、日歯ウェブサイトにおける「全国の歯医者さん検索」では、日歯生涯研修ポイントの高い「認定・修了」の歯科医院を上位に掲載するよう変更したことも報告した。三重県歯からは「各県における日歯生涯研修セミナーの開催状況」を協議事項として提出していたが、日歯生涯研修セミナーの内容は会員全てが視聴し理解してもらうことを前提に企画制作しているので、各郡市歯科医師会でのDVD講習会の開催や個人購入の斡旋に加え、JDA「E-system」での視聴等、各会員への周知を徹底して欲しいと要請された。

第4分科会

地域保健・防災対策



第4分科会は日歯・佐藤常務理事が出席し、「医療・介護サービスの提供体制改革のための新たな財政支援制度」の事業計画の策定スケジュールについて報告が行われた後、協議に入った。

まず、全体の協議題として防災対策が取り上げられ、各県から資機材リストや備蓄品等の整備状況、災害時における口腔ケア講習、県歯災害対策本部設置訓練や身元確認訓練等の実施状況につい

て報告された。

その後、二つのグループに分かれて、それぞれ①後期高齢者医療の被保険者に係る歯科健診 ②地域包括ケアシステムの取組みと連携—についてワークショップ形式での協議を行った。後期高齢者歯科健診については、各県から市町村の足並みが揃わないこと（歯周病検診を集団方式で実施している地域もある）や健診料・自己負担金の設定等の課題が提示され、三重県からは今年度より実施された経緯、実施状況、問題点等について報告した。他県でも次年度より実施される予定とのこと。地域包括ケアシステムの取組みについては、在宅歯科連携室の設置や協力歯科医師の名簿作成、訪問口腔ケアに携わることのできる歯科衛生士の養成講習会等の報告があったが、各県とも行政、医科との連携を取るのが難しく、最大の課題となっている。

第5分科会

医療保険



第5分科会には日歯の堀常務理事、山口理事が出席した。堀常務理事からは6月に閣議決定された「骨太の方針」及び「日本再興戦略」等における社会保障制度に係る論点と日歯の対応、各種審議会での議論や消費税問題等、直近の課題とその対応について詳細な報告があった。また、厚労省医療指導監査室との勉強会の実施状況やその成果、保険者との意見交換会の内容、社会保険指導者研

修会でもテーマとなった新規技術の保険導入等についても現時点での考えが示された。

協議では、▽各県ごとの審査の判断基準統一化を図るための連絡協議会の設置及び地方厚生局との勉強会等▽行政指導の実施数▽増点に向けての会員指導▽マイクロスコープによる根管治療のトラブル▽周術期口腔機能管理の取組み▽CAD/CAM冠の普及対策▽個別指導時の持参物の取扱い―等について幅広く情報交換が行われた。

三重県では、全国の中でも低水準にある診療報酬の平均点の改善が喫緊の課題と考えており、この日の協議では増点を目的とした各県の取組みから大いに学ぶところがあった。今後県内各地域で開催する社保講習会では、会員の増点に直接結びつくような、より具体的な情報提供ができるよう、工夫を重ねていきたい。

第6分科会

広報・調査



新潟県歯の稲富常務理事が座長を務めた第6分科会では、日歯の栗田理事が出席し広報事業について報告。予算削減に伴う『日歯広報』の発行回数減を補う工夫が必要との認識を示すとともに、日歯公式ウェブサイトのリニューアルが進められていることを明らかにした。また27年3月に予定されている「世界会議2015」の計画概要についても資料が示された。

協議では、岐阜県歯から若年層の受診率アップを狙ってFacebookやローカルアイドルを起用した啓発活動を展開していることが紹介され、長野、静岡県歯からは日歯PRキャラクター「よ坊さん」について、着ぐるみを含めた活用の様子が報告された。都道府県歯ウェブサイトに関しては、その維持管理及びランニングコスト、歯科医師会への入会促進コンテンツの掲載についても意見が交わされた。入会促進については日歯のサイトリニューアルに当たっても検討事項とされているとのことだった。

その後、(株)新潟放送の五十嵐報道制作局長を講師に迎え、「どうやったら取材に来るのか〜効果的なプレスリリースとは〜」と題した講演が行われた。実際のプレスリリースを示しながら、メディアに「取材したい」と思わせるためのポイントが具体的に示される等、参考になる内容だった。

平成26年度 マウスガード講習会

平成26年10月26日（日）
三重県歯科医師会館

10月26日（日）、平成26年度マウスガード講習会が開かれ、大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座・前田芳信教授の講演「使ってもらえるマウスガードの製作法とその利用効果について」を、歯科医師と歯科技工士を中心に113名の会員、スタッフが聴講した。前田教授は日本スポーツ歯科医学会による大規模な疫学調査の結果（2013年の中間報告）を元に、マウスガード使用によるスポーツ外傷の予防効果とカスタムメイドマウスガードの有効性を示し、良いマウスガードと悪いマウスガードの見分け方を説明。カスタムメイドマウスガードの製作についても、設計から口腔内の調整までの注意点を、エビデンスを示しながら分かりやすく解説した。三重県では2021年に国体の開催が予定されていることもあり、▽スポーツ選手が本来のパフォーマンスを発揮するには口腔の管理が重要であること▽若年層では学校等によるマウスガードの普及が必要不可欠であること―等を啓発するとともに、歯科医師会としてのサポート体制を確立する必要があることも強調された。今回の講習会に参加した県歯会員に対しては、県民の健康づくりを支援する目的で設立されている三重県スポーツ・健康づくり歯学協議会（Mie Dental Conference of Sports & Health Promotion：三重 SHP 協議会）への登録とマウスガード製作可能歯科医院としての協力も呼びかけられた。

（理事・蛭川幸史 記）

使ってもらえるマウスガードの製作法とその利用効果について

大阪大学大学院歯学研究科
顎口腔機能再建学講座 有歯義歯補綴学・高齢者歯科学分野
前田芳信教授



防するか否かについての科学的根拠に基づいた調査が少なかった理由としては、▽倫理的問題としてMG非装着群をコントロールとして設定できない▽アンケート項目に定量的な分析ができないものが含まれている▽どのようなMGを使用しているかが不明である―等が挙げられる。しかし、日本スポーツ歯科医学会が実施している大規模な疫学調査の中間報告(2013)によると、MGの使用頻度(着用率)は口腔外傷の発生を有意に低下させることが明らかになっており、カスタムメイドMGと市販のマウスフォームドタイプMGの比較でも、カスタムメイドMGの使用が、口腔外傷の発生を

マウスガード使用による外傷予防効果

マウスガード（以下、MG）の使用が外傷を予

有意に低下させることが明らかとなっている。

■ 選手にとって使いやすいマウスガードとは

MGがスポーツ選手に敬遠される主な理由としては、▽異物感▽発音障害▽呼吸障害―が挙げられる。しかし、これらの問題は適合の悪い市販のマウスフォームドタイプMGを装着した場合に生じることがほとんどで、咬んでいないとMGが脱落することに起因している。これに対し、歯科医師の診断と指示により製作されるカスタムメイドMGでは、適合や外形や咬合等を考慮して設計することで、マウスフォームドタイプよりはるかに使いやすいものが製作できる。

MGの良否の判断は、その適合性（フィット感）、外形（異物感）、咬合（咬み合わせ）で判断する。簡便な方法としては、「イ、ア、ウ」の順に大声で発音させるテストがあり、良いMGでは、これらを発音させても外れてこない。使ってもらえるMGの条件としては、口を開けても外れてこないことに加え、コンパクトで異物感のないことや発音のしやすさ等も挙げられる。

■ マウスガード製作のポイント

印象採得では上顎臼歯部の頬側歯頸部アンダーカットに気泡を入れないことが最も大切である。小帯の位置を確認するためには、歯肉頬移行部までを印象域に含むことが推奨される。作業模型の製作に簡易型のバキュームフォーマー（吸引型成形装置）を使用する場合にはいくつかの注意が必要になる。吸引型成形装置では、模型内を空気を通してシートが密着するため、石膏の真空練和は行わず、模型を十分に乾燥させておくことが必須である。同様の理由から分離剤を使用する場合も必要最小限にする。

シート成形時には、適温（80～100℃）に熱した材料をできるだけ短時間で成形し、形状を記憶させる必要がある。そのためには、シートが15mm程度垂れ下がったタイミングで圧接を開始する。また、前歯部唇側面のシートの厚みを確保するためには、▽作業模型は上顎の口蓋部分が抜ける

程度までトリミングする▽前歯歯軸と基底面の角度を直角あるいはそれ以下になる（上顎模型は前歯を立てる）ように位置付けする▽模型を後方寄りに置く―等の工夫が有効である。また、模型を40℃程度に温めてから吸引すると成形性が良好となる。

外形線は、口蓋側は歯頸部、頬側は歯肉頬移行部の半分くらいまでとするが、圧接後に急冷して外すと使用期間とともに変形量も増すため、必ず40℃以下までに徐冷してから離型する。また、離型の際は熱した器具でシートを切らずに、余分なところをハサミでカットしたり、トリミングの際に軟質材料専用のバーを使用したりする等して、変形を引き起こす加熱を極力避ける。

ナイトガード等は第二大臼歯まで覆うことが多いが、MGではそこまで延ばす必要はない。高校生等では第二大臼歯が萌出途中であることも多く、嚥下の際の異物感も強くなるためである。第二大臼歯を覆わなくても、使用時間が1～2時間程度のため、歯の挺出を考慮する必要はない（ただし、ナイトガードとして使用することは厳禁）。シートの厚みは上顎唇側面では3mm以上必要であり、成形後に3mm以上の厚みを確保するには、4mmのシートを使用することが推奨される（図1）。

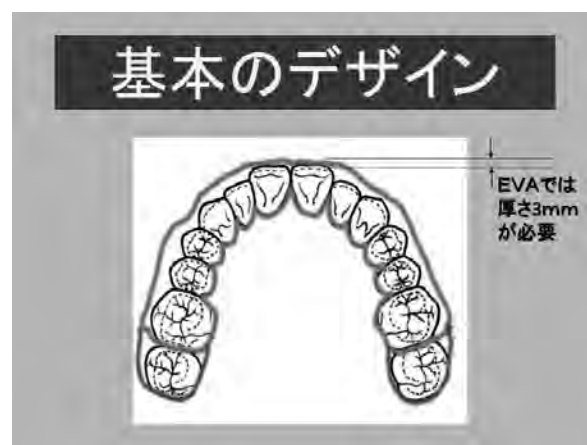


図1 基本的なデザイン

マウスガードの外形設定では、義歯のような辺縁封鎖の必要はなく、上顎臼歯部歯頸部アンダーカット部分の適合性が維持力に影響を与える。また、シートは軟質のものよりも、ある程度硬い方が、衝撃が分散されるため望ましいと考えられる。

作業模型は、平均値咬合器に中心咬合位で装着し、上顎前歯歯頸部と下顎前歯の距離で3mm、臼歯部では安静空隙内の1～1.5mmになるよう咬合面を削合調整すると顎関節への影響が少ない。特に顎関節の前方転位がある場合に開口量を大きくすると、関節がさらに前方転位し症状を悪化させるため注意を要する。口腔内での削合調整の目安としては、軽く合わせた時に臼歯部が咬合し、噛み締めた状態（強く咬合した際）で前歯が軽く当たる程度とする。調整時に臼歯部等に穴があいても機能に問題はない。また、咬合接触面の形態は、動き回ることが多いスポーツの競技者には浅い方が良く、パワーを出す競技の競技者には深い嵌合にするのが良いと言われているが、各スポーツ選手により感覚は異なるためそれぞれの好みに合わせ、顎位等も含め対応すべきである（図2）。

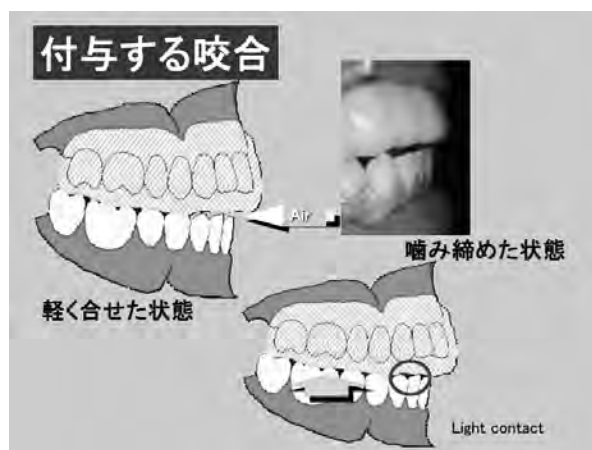


図2 咬合付与

■ マウスガード使用による脳震盪の予防効果

脳震盪は頭位の回転加速により発生する。MGが脳震盪を抑制し軽減できるという疫学的なエビデンスは確立されていないが、MGの装着で脳震盪の原因とされる頭部の回転加速を低下させるとする実験的なデータは得られている。MGを装着しない開口状態の衝撃（回転加速）を100%とした場合、MGを装着しないで閉口状態（上と下を軽く接触している状態）にした場合では衝撃が60%に、口を閉じ歯を食いしばっている状態では50%程度に低下する。これに対しMGが装着されていれば、軽く接触している状態でも50%程度に

まで衝撃を吸収できるというものである。

■ マウスガード使用による全身機能への影響

MGの装着により全身の平衡機能が改善されるとする研究データは数多く得られているが、噛み締めることは、ヒラメ筋H反射の活動を賦活するとともに拮抗筋の活動も賦活するため、関節を逆に固定する結果を引き起こす。屈筋と伸筋が同時に活動することは、全身の柔軟性の低下を引き起こす。

噛み合わせには、▽力を入れずに口を閉じ噛み合わせない状態▽上下の歯を軽く噛み合わせる状態▽強く噛み締め食いしばる状態—の三つが存在するが、スポーツの種類によりそれぞれ有利な噛み合わせが存在するようである。また、日常生活においても、咬合の支持は全身の平衡調節機能に関与するため、高齢者や小児の転倒も咬合支持と関係している可能性が高いとも言われている。

MGのサイズは、呼吸のしにくさや疲労感に繋がるが、適合の良いMGを装着した場合には、鼻呼吸に問題がなければ呼吸機能の障害は起こさない。呼吸障害を起こすのは、適合の悪いMGが開口時に脱落するからである。前述のように、適正な外形を与えることで、発音にも影響を与えないとする報告が多数ある。

■ 使用時の注意

MG装着におけるその他の注意点として、口腔内が清掃された状態であることが挙げられる。特にプラークが存在した状態でスポーツドリンク等を摂取すると、pHの低下で炎症やう蝕が誘発される。このような状態でMGを装着すると、さらにう蝕のリスクが大きくなるため注意を要する。また、装着後のMGは、水洗いによる清掃後に乾燥させた状態で保管する（義歯のように水中での保管の必要はない）。その際、熱を加えると変形の原因となるのでお湯等の使用は厳禁である。細菌の繁殖を予防するためにマウスガードクリーナーの使用も有効だが、乾燥状態での保管になるため、義歯洗浄剤等は使用する必要はない。

平成26年度 歯科衛生士復職支援講習会

平成26年 9月28日（日） 伊勢保健衛生専門学校



9月28日（日）、伊勢保健衛生専門学校で歯科衛生士復職支援講習会が開かれた。県内の歯科衛生士不足対策として平成22年度からスタートした本事業、伊勢での開催も23年以来二度目となる。今回は離職後数年しか経っていない者から25年に及ぶ長期のブランクがある者まで8名の離職歯科衛生士が現場復帰を目指して参加した。

午前中は県歯役員による講義。まず、辻副会長が概説として県内の歯科衛生士需給の現状や法律に基づいた歯科衛生士の業務内容について説明。次いで近年の医療安全及び感染予防の考え方について、消毒・滅菌の基本からユニバーサル・プリコーションの概念までを紹介した。伊藤理事からは現在の保険診療における歯周治療の流れと歯周病メンテナンスにおいて歯科衛生士が果たす役割の大きさを説明。また、インプラント治療でも歯科衛生士による口腔衛生管理が欠かせないことを強調した。最後に桑名理事が、高齢化が進む中で在宅歯科医療や介護の現場において歯科衛生士による専門的口腔ケアやマネジメントが求められている現状を説明した。

午後は伊勢保健衛生専門学校の講師4名が加わっての実習。内容は問診から印象採得と石膏模型の作製、歯周治療（歯周病検査、TBI、スケー

リング、PMTC）等。今回は離職期間の長かった参加者もあり、最初は緊張している様子が見えが、ある程度の臨床経験は持っていたので、次第に現役時代の感覚を取り戻し、様々な作業もスムーズにこなせるようになった。相互実習では受講者の各ペアに講師1名ずつ付く体制が取れたため、ミラーの使い方からバキュームの位置、スケーラーの角度等をきめ細かく指導できた。



参加者は歯科衛生士として臨床現場に復帰したいという明確な希望を持っているので、受講姿勢は真剣そのものだったが、過去に学んだ自分の知識が現在の臨床現場で通用するのか、最先端の歯科治療はどんなものなのか、今から学習して身に付くのか等の不安を抱えていることも講習を通じて感じ取ることができた。

県歯では離職歯科衛生士の職場復帰のための入り口の一つとして復職支援事業を継続して行っているが、会員の診療所にも復職を望む歯科衛生士の受け入れ態勢の整備を期待したい。意欲はあるが不安も抱えた離職歯科衛生士たちが歯科診療所の扉を叩いた時に、そうした不安を理解し、少しでも復帰へのハードルが低くなるよう配慮して、迎え入れて欲しい。

（理事・伊藤法彦 記）

平成26年度 社会保険指導者研修会

平成26年 9月17日（水） 日本教育会館 一ツ橋ホール

新規技術の保険導入をテーマに研修

9月17日（水）、東京一ツ橋の日本教育会館で、厚生労働省と日歯の共催による平成26年度社会保険指導者研修会が開かれ、大杉常務理事、笠井理事、稲本理事、前田理事、井上理事が出席した。午前には厚生労働省保険局・田口円裕歯科医療管理官が「最近の社会保険を取り巻く状況について」と題して講演。午後には「新たな歯科医療技術について～各分野における新技術と保険導入の可能性について考える～」をテーマにした研修が行われた。日歯・堀 憲郎常務理事が「新たな歯科医療技術・医療機器等の保険導入の現状と課題（その2）」と題して昨年に続く内容で基調講演。その後、鶴見大・朝田芳信教授、国立長寿医療研究センター歯科口腔先進医療開発センター・角 保徳センター長、新潟大・吉江弘正教授、広島大・津賀一弘教授がそれぞれ講演し、日本歯科医学会・住友雅人会長を座長にパネルディスカッションが行われた。



研修会に先立ち、主催者代表として厚労省・唐澤 剛保険局長、日歯・大久保満男会長がそれぞれ挨拶に立った。

唐澤局長は8020達成者の増加や小児う蝕の減少等、国民の口腔の健康状態の向上を認めたうえで、目下の課題は高齢者に対する歯科医療との認識から、今回の診療報酬改定では在宅歯科医療や医科歯科連携を重点的に評価したと述べた。また、研修のテーマである新たな歯科医療技術については、26年度改定で矯正アンカーやCAD/CAM冠等を保険導入したが、今後もさらなる歯科医療の技術

発展に期待しつつ、改定の成果を検証し、次期改定に繋げていきたいと述べた。さらに、来年の通常国会には医療保険改革の法案を提出する予定であり、国民健康保険の財政を都道府県が担うことや規制改革会議が提案した「患者申出療養」について法案に盛り込む意向を示した。また、政府が進めている「まち・ひと・しごと」創生の取組みにおける重要課題として「地域包括ケアの推進」を挙げ、口腔ケアを含めた歯科医療、歯科保健の重要性とその推進に当たっての協力を求めた。

大久保会長は、厳しい財政の中で伸び続ける医療費と伸び悩む歯科医療費について触れ、マクロ的に見た医療費のコントロールの難しさと対策の必要性を「日本国民として生まれた宿命」と「歯科医師としての使命」という観点から簡潔に述べた。また、医療が臓器別に細分化されてきていることについて、歯科医療も臓器別医療の一つではあるが、人間が生きていくことの根幹に関わる医療であり、最後の最後まで自分の口で食べられるようにすることが我々の使命であると締め括った。

講演：「最近の社会保険を取り巻く状況について」厚労省保険局・田口円裕歯科医療管理官

田口管理官は26年度診療報酬改定について、高齢者の現在歯数の増加や小児う蝕の減少、歯科受診者に占める高齢者割合の急増と未就学者の割合減少等、歯科の患者層及び口腔内の状況や疾患の構造変化を捉えたうえでの、将来的な歯科需要を見越した改定だったと振り返った。

改定の具体的な内容として、▽消費税率が8%に引き上げられたことへの対応▽在宅歯科医療の推進▽周術期における口腔管理の充実▽医科医療機関との連携▽生活の質に配慮した歯科医療の充実▽先進医療・新規医療技術の保険導入一等を挙げ、医科と歯科の連携を図るため、医科点数表に加算点数を設定したことを強調した。

また、診療報酬体系の機能・役割として▽医療機関の収入源▽医療費の配分▽医療提供体制への影響▽政策的な誘導機能一の4つを挙げ、診療報酬の政策誘導機能の観点から、歯科医療について

は大きなビジョンが十分ではなく、将来的な歯科保健医療ビジョンを作成し、あるべき姿をイメージしながら、中長期的・短期的な診療報酬上の評価のあり方を検討していくことが必要だとの認識を示した。

次回改定に向けては、引き続き▽消費税への対応▽在宅歯科医療、周術期の医科歯科連携と口腔機能▽地域包括ケアにおける歯科の役割の明確化▽かかりつけ歯科医（主治医）としての働き▽う蝕や歯周疾患の重症化予防一という点に着目するとともに、歯科固有の技術についても考慮し評価していく姿勢を示した。中医協の動きとしては、訪問歯科診療やチーム医療推進等の検証を行っており、その結果を元に次期改定で対応していくと説明。医薬品・医療機器の保険適用での費用対効果の導入や患者申出療養制度の創設等についても中医協の場で議論していくと述べた。

研修：新たな歯科医療技術について～各分野における新技術と保険導入の可能性について考える



研修は日歯・堀 憲郎常務理事の基調講演「新たな歯科医療技術・医療機器等の保険導入の現状と課題（その2）」（昨年の社会保険指導者研修会でも同タイトルで講演している）からスタートした。

堀常務理事は、これまで日歯・大久保執行部で繰り広げられてきた議論について振り返り、国民を巻き込むとともにエビデンスを盛り込んできたことが特徴で、その目的は歯科医療技術に対する適切な評価を得て、長寿社会で国民が最後まで質の高い生活を全うできるように支える役割を果た

していくことにあったと述べた。

こうした議論を診療報酬に反映させるため、歯科医療機関経営の基礎を支える基本診療料及び基本的技術料の引上げを求め、超高齢社会における歯科医療の新しい方向性を改定で示すことや臨床現場を窮屈にしている細かすぎる通知体系の整備を課題として取り組んできたと説明。また、現在は厚労省と協調できているが、執行部の交替や行政側の人事異動があっても基本方針がぶれることのないよう、今後も議論を深めたいとした。その他、マイナンバー制度や患者申出療養を含む保険外併用療養費制度、医療技術の費用対効果評価の導入、薬価改定財源の取扱い等の課題についても様々な議論が必要であるとした。さらに、口腔機能管理をはじめとする新しい歯科医療の評価として、▽生涯にわたる口腔機能の維持向上▽在宅を含む高齢者歯科医療のさらなる取組み▽重症化予防という観点▽歯科における主治医機能一等が議論の俎上に載ってくるとの見方を示した。

最後に新規技術の開発と保険収載についての流れを説明。歯科の病名に関する議論もあることを示したうえで、次世代が誇りを持って国民のために歯科医療に従事できる環境づくりを目標に掲げて講演を締め括った。

続いて、パネルディスカッションのイントロダクションとして日本歯科医学会・住友雅人会長が新たな歯科医療技術の保険収載に係る学会の活動について報告するとともに、次期診療報酬改定に向けた考えを示した。

パネルディスカッションでは4題の講演が行われた。講演1は鶴見大・朝田芳信教授による「小児の口腔機能評価に対する新規技術」。朝田教授は小児う蝕が激減していく中での今後の小児歯科医療の課題として、これまでのような疾病対応だけでなく口腔機能に目を向けていく必要があると述べ、小児の口腔機能障害には口腔習癖が関わっていることが多く、口腔周囲筋の機能異常が原因であると指摘。こうした小児の口腔機能障害に対する処置は大半が保険導入されてこなかったが、今回の改定で乳歯の喪失に対する保険装置が保険導入されたことは、非常に重要なことと認識していると述べた。さらに、小児期に何らかの咬合異常が生じた場合、保健指導や口腔習癖の改善により本格的な矯正歯科治療に移行せずにすめば国民にとっては有益なことであり、それらを保険診療でカバーできることが望ましいとの考えを示し、具体的には口腔機能評価に係る新規技術として口唇閉鎖力測定装置の開発状況や臨床研究の状況を説明。口唇閉鎖力検査の有用性や計測の容易さとともに、客観的かつ継続的なデータ蓄積が可能であること等を強調した。

講演2では「歯科用OCT画像診断機器の開発～日本発、世界初の製品化を目指して～」と題して国立長寿医療研究センター歯科口腔先進医療開発センター・角保徳センター長が講演。OCT（Optical Coherence Tomography：光干渉断層画像診断法）の特徴として、▽X線のような為害性がなく非侵襲性である▽その場で画像が見られる同時性がある▽CTやMRIの10倍以上の高解

像度、小型化が可能である一等を挙げ、日本人の発がんの3.2%は医療診断用放射線によるとの報告も紹介しながら、「生命に関わることが少ない診断では非侵襲のものが望ましい」と述べた。さらにOCT活用の可能性として、▽う蝕の臨床診断や治療▽歯周病治療への応用▽口腔がん診断▽義歯の非破壊検査▽CAD/CAMシステムへの応用▽小型化による在宅歯科診療での利用一等も紹介した。

講演3では「歯周病診断における新規検査」と題して、新潟大学大学院歯周診断・再建学分野の吉江弘正教授が講演。歯周病の高い有病者率や生活習慣が危険因子となること等の特性を再確認するとともに、現在の医療保険制度における歯周病検査について、歯周関連医療費5,442億円の1/4が検査の費用であると指摘。歯周病の重症化予防という論点からは、細菌感染やリスク因子を検査することが罹患率の低下につながるとの考えを示し、細菌検査の治療への影響や検体採取法による利点・欠点について述べたうえで、細菌核酸定量検査を新規検査として保険導入することを提案した。

講演4では「口腔の運動機能を数値評価する舌圧検査」と題して、広島大学大学院先端歯科補綴学・津賀一弘教授が舌圧測定器の安全性、有効性について述べ、日本老年歯科医学会のガイドラインを紹介した。筋力強化訓練としての「ペコぱんだ」の利用法を紹介し、その効果についても報告。舌圧検査を定量的スクリーニング及び力の定量評価として活用すれば、内視鏡検査や造影検査の症例も限定される可能性があり、被曝もないことから反復して検査をすることが可能で、摂食機能療法や摂食補助床による治療をより安全、より効果的に行えると説いた。

最後にパネルディスカッションとして、4名の演者と日歯・堀常務理事、厚労省保険局医療課・小椋正之課長補佐が登壇し、日本歯科医学会・住友会長を座長に新規技術の保険導入について活発な意見交換が行われた。

（理事・井上 博 記）

名古屋国税局管内税務指導者協議会

平成26年10月23日（木） 名鉄ニューグランドホテル

10月23日(木)、名鉄ニューグランドホテルで名古屋国税局管内税務指導者協議会が開かれた。この会合は、毎年、名古屋国税局管内の東海4県の歯科医師会税務担当者らが一堂に会し、税務関連事業についての連絡・協議を行うとともに、名古屋国税局から担当者を迎えて意見交換を行っているもの。今年度は三重県歯から辻副会長と、桑名理事、伊藤理事、植村顧問税理士が出席。太田常務理事も日歯の税務・青色申告委員会副委員長として参加した。

第1部前半の協議では、各県歯からの現況報告が行われた他、岐阜県歯から26年4月の消費税率の8%への引上げに伴う基本診療料への補填について検証した結果が報告された。三重県歯・植村顧問税理士は持ち分なし医療法人への移行について質問し、日歯・丸山定夫嘱託税理士がこれに回答した。

後半は日歯から出席の2名がそれぞれ講演。税務・青色申告委員会の太田副委員長は「消費税10%への対応～控除対象外消費税の解消に向けて～」と題して、今年4月の診療報酬改定における消費税補填の評価に加え、27年10月に予定されている税率10%への引上げに向けた日歯の考え方について解説した。日歯は従来から「医療は公共性が高く消費税にはなじまない」との立場から、現行の非課税とする取扱い自体は是としつつ、控除対象外消費税解消のための適切な対策（補填または還付・返還）が講じられるよう求めてきたことを確認するとともに、課税化した場合の問題点として、▽医療機関が負う事務負担の増大（及びそれに伴う税制特例措置廃止の危険性）▽患者負担増による受診控えの懸念▽レセプトの返戻・査定に伴う患者とのトラブルの増大及び複雑化等を挙げた。

8月に公表した27年度税制改正要望において、消費税率10%引上げ時の対応として、仕入税額控

除または還付が可能な制度の採用（非課税・申告還付制度等）を求めつつ、10%への引上げ後に環境整備が整えば軽減税率、ゼロ税率も含めた課税化も選択肢として言及している点については、日医等との協調に配慮したものであると説明、理解を求めた。

日歯の丸山定夫嘱託税理士からは「26年度税制改正と歯科クリニックの経営改善」として、法人税・消費税・所得税等、税制改正についての解説に加え、データ分析を元にした経営戦略として、▽5年に一度は診療圏調査（人口推移・診療圏予測患者数）や患者調査（自院の患者調査）を行う▽毎年患者ニーズ調査を行う▽経営指標を元に自院の強みと弱みを知る▽医療サービスの差別化を行う一等が挙げられた。

第2部からは名古屋国税局課税第一部個人課税課の藤村伸介課長と早川 徹連絡調整官が加わって、歯科医師会側の出席者と意見交換。藤村課長からは28年から始まる社会保障・税番号制度についての説明があった他、e-Taxの普及状況が東海4県の歯科では65.5%で年々増加していることが報告された。早川調整官からは、税務調査の状況・具体事例も含めた申告上の誤りについて詳しい説明があった。また、税務調査件数自体は昨年より減っているものの、調査一件当たりの重加算税は増加していることも報告された。

最後に愛知県歯から東海4県歯の税務調査アンケートの結果が報告され、税務調査時の調査人員数や調査時間及び日数、調査内容等が詳しく示されたが、税務調査の回収率が低いことが共通の悩みであることも明らかになった。調査結果は会員に還元されるものであり、精度向上のためにも県歯会員には税務調査アンケートに積極的に協力して欲しい。

（理事・伊藤法彦 記）

平成26年度

October

第7回理事会

平成26年10月2日（木）

三重県歯科医師会館

医療介護総合確保基本方針に沿って協議



10月2日（木）、平成26年度第7回理事会が開かれた。田所会長からは、9月に厚労省の医療介護総合確保推進会議が取りまとめた「地域における医療及び介護を総合的に確保するための基本的な

方針」について詳しい報告があった。地域包括ケアシステムについては、9月25日（木）に開かれた三師会幹事会でも議題に上っており、この日の理事会では懸案である主治医意見書に歯科介入の必要性を反映させる方策について意見が交わされた。大杉常務理事は9月17日（水）に開かれた社会保険指導者研修会について報告するとともに、9月25日付で日歯が公表した保険医療機関の指導の際の持参物の取扱いについて、厚労省との交渉経過も踏まえて説明。太田常務理事は、9月16日付で公表された医療団体の統一見解としての「消費税に関する税制改正要望」について解説した。

委員会事業等報告

●社会保障委員会

【事業活動】個別指導・自主懇談【出席会議】

平成26年度社会保険情報ネットワーク連絡協議会（9/16）、平成26年度社会保険指導者研修会（日歯、9/17）、岐阜県歯シンポジウム（9/20）、国保・社保審査委員会合同協議会（10/23）【報告事項】国保共同電算処理システムの不具合に起因する資格過誤に関する事務処理方法、指導の際の持参物の取扱い

●医療管理委員会

【事業活動】平成26年度BLSヘルスケアプロバイダーコース（9/21）、平成26年度歯科衛生士復職支援講習会（9/28）、第2回医療管理委員会（9/18）【出席会議】平成26年度県歯医療管理委員及び郡市区医療管理担当者合同協議会（9/18）【報告事項】電波環境協議会による

「医療機関における携帯電話等の使用に関する指針」、歯科衛生士復職支援関連事業追跡調査結果、歯科相談（6件）



●学術委員会

【報告事項】平成26年度マウスガード講習会（10/26）、第1回学術研修会アンケート結果（9/7）、平成26年度スポーツデンティスト養成

講座（10/11・12）、世界会議2015（3/13～15）の事前登録

●福祉厚生委員会

【事業活動】第1回福祉厚生委員会（9/11）

●公衆衛生委員会

【事業活動】平成26年度フッ化物応用研修会（9/11）、子ども虐待防止世界会議名古屋2014（9/15）、病院歯科における実践研修事前講習（8/7）、児童相談所における歯科健診・歯科保健指導（9/18）、三重県保育士協会ブロック研修会における講演（9/18）、第6回かむかむクッキングコンクール1次審査（9/18）、平成26年度災害対応における高齢者への食支援及び口腔ケア研修会（9/25）【出席会議】平成26年度第1回三重県公衆衛生審議会歯科保健推進部会（9/4）、第67回三重県小児保健学会理事会（9/7）、三重県社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会（9/12）、いい歯の8020表彰審査委員会、平成26年度第2回三重県医療審議会健やか親子推進部会（9/18）、第19回三重県歯科保健大会第3回実行委員会（10/2）【報告事項】第2回地域包括ケア歯科医療従事者養成講座（11/24）、協会けんぽ研修会（11/26）【協議事項】平成26年度三重県年金委員・健康保険委員大会における講演、「介護予防サロンの社会・地域貢献モデル事業」への協力、後期高齢者歯科健診に関

する会員向けQ & Aの作成

●広報情報委員会

【事業活動】FM三重『はぴはぴ子育て』【報告事項】ウェブサイト平成26年9月分アクセス集計、8020推進財団からの会誌寄稿依頼について（『8020』第14号）

●災害時の対応・体制に関する委員会

【報告事項】SECOM登録状況（10/1現在）、災害時の対応・体制に関する委員会郡市会担当者及び三重県警察医合同会議、歯科診療情報の標準化に関する講演（11/6）、平成26年度全国7地区災害歯科コーディネーター研修会（日歯）

●日歯委員会報告



【地域保健委員会】第5回高齢者歯科保健・介護保険部門打合せ、第7回企画調整部門打合せ（10/1）

その他の報告

1. 障害者歯科センター報告
2. 介護保険給付審査会報告
3. 三師会幹事会（9/25）
4. 地域包括ケアに関する講演会について（10/30）
5. 死因究明等推進協議会（仮称）の設置に向けた都道府県歯に対する協力要請について（日歯）
6. 消費税に関する税制改正要望（9/16）について

議題

- 第1号：郡市長会議招集並びに附議事項に関する件（10/30）
 第2号：入会申請について／宮崎隆浩（津）
 第3号：互助会給付について（9/5～10/2 申請分）

協議事項

1. 平成26年度東海信越地区歯科医師会役員連絡協議会について（10/4）
2. 第20回三重県歯科保健大会の開催場所及び開催日について

平成26年度

第4回郡市会長会議

October

平成26年10月30日（木）

三重県歯科医師会館

警察歯科の今後の体制について協議

10月30日（木）、平成26年度第4回郡市会長会議が開かれた。田所会長からは歯科医師需給問題に対する日歯の見解や、平成27年度歯科保健関係予算概算要求の概要、医療介護総合確保方針の他、国民医療費、データヘルス計画等について報告された。9月16日付で公表された医療団体の統一見解としての「消費税に関する税制改正要望」については日歯の税務・青色申告委員会の副委員長である太田常務理事が解説した。協議では、三重県警察医及び大規模災害時の身元確認の今後の体制について意見を交わした他、20年の節目を迎える来年度三重県歯科保健大会を津市で開催することが合意された。

会長報告



歯科医師需給問題に対する日歯の見解について

10月30日（木）、日歯は定例記者会見で「歯科医師需給問題」に対する見解を公表した。これは6月に行われた歯科医師需給問題についての下村文部科学大臣との懇談で、適正な歯科医師数を示すよう求められたことに応じたもの。同見解では、人口10万人当たり歯科医師数50名という国の目標（昭和59年に達成）を踏まえ、現在試算される人口変動、歯科医師数、在宅歯科医療需要等を加味した試算に基づき、現段階で日歯が考える歯科医師数について、①適正歯科医師数は82,000名程度が上限 ②今後の新規参入歯科医師数は1,500名程度が上限 ③これを

実現すると20年後の人口10万人対歯科医師数は71名と結論付けている。

平成27年度歯科保健関係予算概算要求の概要について

歯科保健医療の充実・強化予算3億3,700万円のうち、8020運動と口腔保健推進事業を統合・拡張した「歯科保健医療の推進」として、約2億8,000万円が計上されている。また「医療提供体制の改革のための新たな財政支援制度」に約602億円、「歯科医療分野の情報化の推進」に1,500万円、「歯科医師臨床研修関係費」に14億5,300万円、「歯科医療従事者等の資質向上」に600万円、「へき地等における歯科医療確保」に500万円が計上されている。

「地域における医療及び介護を総合的に確保するための基本的な方針」について

6月に成立・公布された医療介護総合確保推進法に基づき、厚労省の医療介護総合確保推進会議が、9月に「総合確保方針」を取りまとめた。基本的な方向性として、①効率的で質の高い医療提供体制の構築 ②地域包括ケアシステムの構築 ③質の高い医療・介護人材の確保と

多職種連携の推進一などが挙げられている。同推進会議には日歯から和田副会長が出席しており、9月8日(月)の第3回会合に資料(「医科歯科連携及び医療と介護の連携における歯科の問題点」)を提出、介護認定に係る主治医意見書に関して歯科医師が歯や口腔の問題を指摘する機会がないこと等の問題点を指摘している。

国民医療費について

10月8日(水)に平成24年度の国民医療費が公表された。「国民医療費」は39兆2,117億円で前年度に比べ1.6%増加し、6年連続で過去最高を更新している。歯科診療医療費は過去最高の2兆7,132億円で、対前年度比375億円、1.4%増加したが、総額に占める割合は前年度と同じ6.9%だった。年齢階級別では65歳以上の医療費の構成割合が国民医療費では56.3%であるのに対し、歯科診療医療費では36.1%と低い割合となっていることに注目しておきたい。

データヘルスについて

厚労省は10月に「データヘルス計画作成の手引き」を公表した。これは6月に閣議決定された「日本再興戦略」の中で、「全ての健康保険組合に対し、レセプト等のデータの分析、それに基づく加入者の健康保持増進のための事業計画として『データヘルス計画』の作成・公表、事業実施、評価等の取組みを求める」と掲げられたことに対応したものである。今後、いわゆる医療ビッグデータの活用が進んでいくと思われるが、財務省の財政制度審議会財政制度分科会

等で議論されている都道府県への支出目標設定等に利用された場合には適切な医療提供の阻害に繋がりにくいため注視していく必要がある。「消費税に関する税制改正要望」について(太田常務理事)



9月16日(火)、医療団体の統一見解として「消費税に関する税制改正要望」が発表された。要望では「消費税率10%時に医療機関等の消費税負担をめぐる問題の抜本的解決を図ることの27年度税制改正大綱への明記」と「消費税率を10%へ引き上げる際に、医療機関等の設備投資等に係る消費税についての税額還付措置の導入」を求めている。日歯の瀬古口常務理事は、本要望における「抜本的解決」には、日歯が求めてきた「非課税・還付」も含まれるとの理解を明らかにしている。また、10月29日(水)の国民医療推進協議会総会では、医療・介護提供のための適切な財源確保や医療に関わる消費税問題の解決等を求める決議が全会一致で了承された。

一般会務報告



会員数

26年4月1日～10月30日の期間で入会12名、退会9名。現会員数874名。

世界会議2015について

日歯等の主催により27年3月13日(金)～15日(日)、東京国際フォーラムで「世界会議2015」が開催される。事前登録が必要だが日歯会員は無料で登録できる。

委員会事業報告

【学術】（蛭川理事）

平成26年度第1回学術研修会結果について

9月7日(日)、四日市羽津医療センター・住田安弘院長と大阪大学大学院歯学研究科・北村正博准教授を迎え、糖尿病をテーマに開催。出席者164名（『三歯会報』10・11月号参照）。

平成26年度マウスガード講習会結果について

10月26日(日)、大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座・前田芳信教授を迎え「使ってもらえるマウスガードの製作法とその利用効果について」と題して講演。出席者113名（P.20参照）。

平成26年度第2回学術研修会について

2月8日(日)、愛知学院大学歯学部保存修復学講座特殊診療科・富士谷盛興教授による「現代の治療指針：ワンランク上の接着を目指す～ワンステップボンドとセルフアドヒーズ（自己接着型）レジンセメント／象牙質知覚過敏症～目からウロコのHys治療最前線」を予定。

【公衆衛生】（羽根常務理事）

平成26年度歯・口の健康に関する図面・ポスターコンクール中央審査結果について

幼稚園の部で亀山市立亀山幼稚園の櫻井歩果さん（5歳）が最優秀賞に選出された。三重県代表が最優秀に選ばれたのは初めて。

第6回かむかむクッキングコンクール審査結果について

台風19号の影響により2次審査が中止となり、1次審査の結果により選出された20作品を優秀賞とした（P.12参照）。

第19回三重県歯科保健大会について

11月3日(月・祝)、四日市市文化会館で開催。「いい歯の8020コンクール」の応募者数は583名に達した（P.4参照）。

後期高齢者歯科健診事業について

10月1日(水)から平成26年度三重県後期高齢者医療広域連合歯科健康診査がスタートした。10月1日(水)～31日(金)までの受診状況を取り

まとめる予定。

平成26年度 今後の公衆衛生事業予定について

▽地域8020運動推進協議会▽フッ化物洗口推進事業▽学校歯科保健指導事業▽口腔ケア推進支援事業▽みえ歯ートネットにおける歯科保健指導事業▽病院歯科における口腔ケア実践研修事業▽生活歯援プログラムを用いた成人歯科健診モデル事業―が県下各地域で順次実施される。10月16日(木)には鳥羽市立神島小学校、神島中学校で「中山間地域における歯科保健指導」を実施した（伊東理事、浜瀬理事参加）。

研修会については、▽11月24日(月)：第2回地域包括ケア歯科医療従事者養成講座▽1月11日(日)：第3回地域包括ケア歯科医療従事者養成講座（歯科衛生士対象）▽2月12日(木)：学校歯科保健先進地視察研修▽2月22日(日)：第6回みえ歯ートネット研修会―の他、平成26年度学校歯科保健研修会、平成26年度母子歯科保健研修会を開催する予定。

【社会保障】（大杉常務理事）

特定社保講習会の開催について

11月27日(木)、25年度に高点数による集団的個別指導を受けた会員を対象にした講習会を実施する。対象者を県歯側で特定できないため、非対象者を含めた全会員宛に案内を送付している点を理解願いたい。

CAD/CAM冠の製作における算定について

CAD/CAM冠の製作において、間接法と直接法の両方に対応する医療機器が発売されているが、「診療報酬の算定方法の一部改正に伴う実施上の留意事項について」（26年3月5日保医発0305第3号）に規定する通り、CAD/CAM冠は作業模型で間接法により製作した場合に限り算定できるので留意されたい。

電子レセプト請求に係る猶予措置を受けている保険医療機関について

電子レセプト請求に係る猶予期間が27年4月で終了するが、三重県では猶予措置を受けてい

る全ての会員が、電子レセプトに移行するための工程表を提出済みであり、猶予期間終了に向けて順調に推移している。

【医療管理】（桑名理事）

平成26年度第1回医療管理講習会について

12月14日(日)、愛知県厚生連海南病院感染制御部感染制御室看護師長・島崎 豊先生を招いて「歯科における感染対策の基本と正しい器材の洗浄・消毒・滅菌」と題して講演予定。

歯科医院の名称の商標登録について

歯科医院の名称のうち、「〇〇歯科医院」の「〇〇」に該当する部分について歯科医業の分類で商標登録がなされ、当該商標登録を行った者から日歯会員に対して「〇〇」についての使用許諾契約の締結や「〇〇」の使用料の支払いを要求する通知が来たとのこと。現在、日歯が対応中だが、このような事例があった場合は県

歯まで連絡・相談して欲しい。

【広報情報】（太田常務理事）

平成26年度「いい歯の日」関連広報事業等について

日歯との協同事業として伊勢新聞・中日新聞（三重版）に「いい歯の日」広告を掲載する。今年度は第19回三重県歯科保健大会が11月3日（月・祝）開催のため、それに先立つ1日(土)に掲載される予定。11月8日(土)には、三重テレビで恒例の歯科啓発番組『歯チカラ』を放送する。今回は「健康寿命を延ばす歯科医療」と題して、後期高齢者歯科健診等の取組みを紹介する。11月6日(木)には『歯チカラ』直前告知も兼ねて熊谷理事が地域情報番組『とってもワクドキ!』に生出演し、三重県歯科保健大会や11月2日(日)に行われる三重県・志摩市総合防災訓練についても報告する。

その他の報告

災害時の対応・体制について（芝田専務理事）

災害時の対応・体制に関する委員会都市会担当者及び三重県警察医合同会議等の開催について

11月6日(木)、災害時の対応・体制に関する委員会都市会担当者及び三重県警察医合同会議を開催する。辻副会長が「警察医の活動について」、三重県警察本部・宮崎上席検視官が「身元不明死体の歯牙調査～通常検視と大規模災害時

の活動～」と題して講義を行う予定。

また同日、新潟県歯・松崎正樹専務理事による歯科診療情報の標準化に関する講演（「標準化によって何が可能になるか」）も行われる。

SECOM安否確認メールアドレス登録状況について

26年10月27日(月)現在、会員869名に対し登録者数712名、登録率81.9%。

協議事項

三重県警察医及び大規模災害時の身元確認の今後の体制について

芝田専務理事から、昭和61年以来、三重県警察本部長より嘱託を受けた歯科医師と医師が合同で組織してきた三重県警察医会について、今年度末で発展的解散とすることを7月27日(日)の第29回総会で決定したことが改めて報告された。併せて、今後も県警からの要請に応じて検案等に対応する警察歯科医としての嘱託は存続するので、執行部としては、引き続き県警及び医師会の担当者との連携を図っていく意向

を示した一方、大規模災害時の身元確認については、嘱託を受けた警察歯科医のみでは対応しきれないことも予測されるため、都市会の担当者を含めた体制作りを検討する方針も示された。

平成27年度第20回三重県歯科保健大会について

来年度の三重県歯科保健大会は20年の節目を迎えるため、津市の三重県総合文化センターを会場に開催する方針が示され、津歯科医師会・前田会長をはじめ一同がこれを了承した。

（広報情報委員・進士史明 記）

平成26年度

November

第8回理事会

平成26年11月6日（木）

三重県歯科医師会館

警察歯科／郡市会災害担当も交えた研修も併催

11月6日（木）に第8回理事会が開かれた。田所会長からは、10月23日付で歯科衛生士法の改正に伴う厚労省医政局通知が発出されたことが報告された。同通知では、今回の改正は歯科医師以外の者が歯科衛生士に対し指導または指示を行えるようにするためのものではない旨が明記されている。協議では10月30日（木）の第4回郡市会長会議に引き続き、警察歯科の今後の体制について意見を

交わし、理事会終了後には災害時の対応・体制に関する委員会郡市会担当者に三重県警察医会の歯科医師も加わっての会合が開かれ、▽辻副会長「警察医の活動について」▽三重県警・宮崎上席検視官「身元不明死体の歯牙調査」▽新潟県歯・松崎専務理事「歯科診療情報の標準化」一等の講演が行われた。

委員会事業等報告

●社会保障委員会



【事業活動】個別指導・自主懇談【出席会議】東海信越地区歯科医師会役員連絡協議会第5分科会（10/4）、国保・社保審査委員会合同協議会（10/23）【報告事項】健康保険高額療養費制度の改正（協会けんぽ）【協議事項】レセプト編綴用厚紙【社会保障委員連絡】社保連絡No.6の送付

●医療管理委員会

【出席会議】東海信越地区歯科医師会役員連絡協議会第2分科会（10/4）、三重県腎臓病療法連携推進協議会（10/15）、平成26年度名古屋国

税局管内税務指導者協議会（10/23）【報告事項】歯科医院の名称の商標登録に関する件、男女雇用機会均等法に関する調査、永年勤続表彰、医師及び看護師等の医療従事者に係る有料職業紹介事業の利用に係る問題を防止するための取組みの周知、第2回医療管理講習会（3/8）、歯科相談（2件）

●学術委員会

【事業活動】第2回学術委員会（10/26）、平成26年度スポーツデンティスト養成講座（10/11・12）【出席会議】東海信越地区歯科医師会役員連絡協議会第3分科会（10/4）【報告事項】平成26年度マウスガード講習会、第2回学術研修会（2/8）、日本糖尿病協会歯科医師登録医制度の更新等（日歯）、平成26・27年度日歯生涯研修事業認定研修会、平成26年度学術研修会助成金申請（鈴鹿、尾鷲）、平成26年度歯科医師臨床研修指導歯科医講習会の開催（日歯）

●福祉厚生委員会

【出席会議】東海信越地区歯科医師会役員連絡協議会第2分科会（10/4）

●公衆衛生委員会

【事業活動】児童相談所における歯科健診・歯科保健指導（10/16）、神島小学校・中学校における歯科保健指導及び神島保育所におけるフッ化物洗口説明（10/16）、三重県産業保健総合支援センター平成26年度産業保健研修会（10/23）、生活歯援プログラムを用いた成人歯科健診モデル事業説明会（10/30）【出席会議】第19回三重県歯科保健大会第3回実行委員会（10/2）、東海信越地区歯科医師会役員連絡協議会第4分科会（10/4）、MIES+検証事業結果報告、愛知県歯科医師会「歯の博物館」視察（10/23）、第19回三重県歯科保健大会シンポジウム打合せ（10/23）、平成26年度日本スポーツ振興センター学校安全業務運営会議（10/30）、平成26年度生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業における協議会（10/30）【報告事項】MIES+検証事業結果、三重県公衆衛生学会抄録、喫煙予防リーフレットの作成【協議事項】『ママごはん』冬号、『ママごはん』への広告

●広報情報委員会

【事業活動】第2回広報情報委員会（10/9）、三重テレビ『歯チカラ』（10/21収録・10/30試写）、FM三重『はぴはぴ子育て』、「いい歯の日」企画地方紙広告掲載【出席会議】東海信

越地区歯科医師会役員連絡協議会第6分科会（10/4）【報告事項】ウェブサイト平成26年10月分アクセス集計、三重テレビ『とってもワクドキ!』、簡易式バックボード作製【協議事項】国立国会図書館インターネット資料収集保存事業許諾依頼、Yahoo! JAPANプレミアム広告、応援隊のぼり旗への法人名掲載（トップアスリート応援募金）

●災害時の対応・体制に関する委員会



【報告事項】平成26年度三重県・志摩市総合防災訓練結果（11/2）、平成26年度災害時情報伝達訓練（桑員・四日市・鈴鹿・亀山）について（12/2）、災害時の対応・体制に関する委員会郡市会担当者及び三重県警察医合同会議、歯科診療情報の標準化に関する講演（11/6）

その他の報告

1. 障害者歯科センター報告
2. 介護保険給付審査会報告
3. 三師会幹事会（9/25）
4. 第19回三重県歯科保健大会結果（11/3）
5. がん患者医科歯科連携登録歯科医院名簿改訂
6. 後期高齢者歯科健診事業受診者数（10/1～10/31）

議題

- 第1号：三重県小児在宅公開シンポジウムに対する後援名義使用の承認
- 第2号：入会申請について／深水陽介（四日市）、別所史博（津）
- 第3号：互助会入会申請
- 第4号：互助会給付について（10/3～11/6 申請分）

協議事項

1. 平成26年度新入会員講習会について（3/1）
2. 三重県警察医及び大規模災害時の身元確認の今後の体制について

国税局個人課税課から会員に対する適正申告の指導について

平成26年10月23日に日本歯科医師会主催の「平成26年度名古屋国税局管内税務指導者協議会（当番県歯：愛知県歯科医師会）」が開催され、名古屋国税局課税第一部個人課税課長及び担当官との協議が行われました。

個人課税課長は、平成25年分の所得税の確定申告における歯科医師の電子申告の利用割合が65.5%で全納税者の利用割合より高くなっており、税務行政に対する理解と協力に感謝の意が表され、担当官から次のような説明があり、会員に対する適正申告の指導依頼がありました。

1 社会保障・税番号制度

平成27年10月から個人番号・法人番号が通知され、平成28年1月から順次、社会保障、税、災害対策分野で利用開始することが予定されています。国税分野においては、法定調書については平成28年分の平成28年1月以後の金銭等の支払等に係るものから、申請書等については平成28年1月以後に提出するものから、所得税の確定申告については平成28年分から、法人税の確定申告については平成28年1月以後に開始する事業年度から個人番号・法人番号の記載が開始される予定です。

2 国外財産調書制度

平成24年度税制改正で創設された制度で、日本に居住している者がその年12月31日時点で総額5,000万円を超える国外財産（外国にある預貯金、出資、不動産など）を有する場合は、その年の翌年3月15日までに「国外財産調書」を提出しなければなりません。平成25年分「国外財産調書」は名古屋国税局管内で457人から提出されました。対象となる会員の平成26年分の提出についてご理解とご協力をお願いします。

3 書面添付制度

この制度は、税理士法33条の2に規定する計算事項等を記載した書面を関与税理士が作成して確定申告書に添付した納税者に対しては、税務署は税務調査の事前通知の前に関与税理士から「添付された書面の記載事項について意見」を聴取しなければならないという制度です。この意見聴取の段階で提出される修正申告書は自主的に提出された申告書として取り扱われ、加算税は課税されません。この制度の特色は、税理士に対する意見聴取で終了することが多く、税務調査に移行する割合が低いことです。

歯科医師の書面添付は、名古屋国税局管内で334人が添付されました。平成26年分の書面添付についても関与税理士と協議の上、ご理解とご協力をお願いします。

4 税務調査の事前通知の方法の改正

平成26年7月より税務調査の事前通知を、①税務署の職員から納税者の方へ事前通知をし、併せて関与税理士へも通知する方法、②関与税理士に対してのみ事前通知する方法のいずれかの方法を、関与税理士を通じ選択することとなりました。関与税理士に対してのみ通知する方法は、関与税理士と納税者の方が調査日時や調査場所などを協議して、関与税理士から税務署の職員に連絡することになります。税務調査がスムーズに行えるようご協力をお願いします。

5 税務調査の結果を踏まえた適正申告の指導依頼

平成25年度の税務調査において、次のような多額な申告漏れを指摘した事例が見受けられましたので、平成26年分確定申告においては適正な申告をされるようご指導をお願いします。

(1) 収入金額関係

収入金額の誤りは、次のとおりです。

- ① 「レーザー治療」、「歯列矯正治療」、「インプラント治療」、「ホワイトニング」などの自費治療収入の一部を故意に収入金額に記帳しなかった。
- ② 「撤去冠など金属の収入」のうち現金で受け取った収入を、雑収入に記帳しなかった。
- ③ 「保険診療窓口負担金」を収入金額に故意に少なく記帳した。

(2) 必要経費関係

事業所得金額の計算上の必要経費は、①収入金額に係る売上原価（総収入金額を得るため直接要した費用）、②販売費、一般管理費、③業務について生じた費用に区分されます（所得税法第37条）。

必要経費の判断基準はその支出が事業の業務を遂行する上で、専ら必要であることです。取引（支出）の都度、この判断を行い記帳するよう指導してください。特に、飲食などの接待交際費については、支出の領収書の裏面に相手の氏名、職業、目的（研修会後の飲食、支部・県歯などの会議後の飲食）など事業との関係を明瞭に記載してください。

必要経費の誤りは、次のとおりです。

- ① 診療所に勤務した事実がないとして親族に対する給料（別居の場合：給料賃金、同居の場合：専従者給与）の3年間の全額が認められず、贈与税が課税されないようその全額を親族から事業所得者に返還した。
- ② 家族の飲食代を取引先との飲食代として領収書の裏面に虚偽記載した。
- ③ 家庭用物品を購入した際に領収書に事業用物品名に書換えを依頼した。
- ④ カード払いの支出のレジペーパーを破棄して現金領収書の作成を依頼し、必要経費をカード払いと現金払いの二重記載をした。

(3) 消費税関係

- ① 簡易課税適用者の場合、課税売上の事業区分記帳がされていなかった。
- ② 本則課税適用者の場合、課税仕入固有仕入、非課税仕入固有仕入、課税非課税共通仕入の区分記帳がされていなかった。
- ③ 事業用車両の下取りは事業用資産の譲渡で課税売上高であるが、申告されていなかった。



10月・11月会務日誌

Association Diary

10月

- 2日 第19回三重県歯科保健大会第3回実行委員会、第7回理事会開催
- 4日 平成26年度第1回東海信越地区歯科医師会会長・専務理事連絡協議会が新潟県で開催され田所会長、芝田専務理事出席
平成26年度東海信越地区歯科医師会役員・同国保組合役員・同連盟役員合同連絡協議会が新潟県で開催され役員全員出席
- 4・5日 第9回子育て応援！わくわくフェスタが伊賀市で開催され内田公衆衛生委員、右京公衆衛生委員出席
- 9日 第2回広報情報委員会開催
- 11・12日 平成26年度公益財団法人日本体育協会公認スポーツデンティスト養成講座が東京都で開催され蛭川理事出席
- 15日 三重県腎臓病療法連携推進協議会に桑名理事出席
- 16日 神島保育所におけるフッ化物洗口説明に羽根常務理事出席
神島小学校・中学校における歯科保健指導に伊東理事、浜瀬理事出席
三重大学緩和ケアセミナーに福森理事出席
- 23日 平成26年度名古屋国税局管内税務指導者協

議会が愛知県で開催され植村顧問税理士、辻副会長、桑名理事、伊藤理事出席
三重県産業保健総合支援センター平成26年度産業保健研修会に羽根常務理事出席
国保・社保審査委員会合同協議会に田所会長出席
第19回三重県歯科保健大会シンポジウム打合せに中井副会長、芝田専務理事出席
愛知県歯科医師会「歯の博物館」へ中井副会長視察

- 26日 第2回学術委員会、平成26年度マウスガード講習会開催
- 30日 生活歯援プログラムを用いた成人歯科健診モデル事業説明会、第4回郡市会長会議、地域包括ケアに関する講演会開催
平成26年度日本スポーツ振興センター学校安全業務運営会議に伊東理事出席
平成26年度生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業における協議会が尾鷲市で開催され中井副会長出席
- 31日 平成26年度第1回みえメディカルバレー推進代表者会議及びみえライフイノベーション総合特区地域協議会に田所会長出席

11月

- 2日 平成26年度三重県・志摩市総合防災訓練に田所会長、熊谷理事、陣田会員出席
- 3日 第19回三重県歯科保健大会開催
- 4日 常務理事会開催

- 6日 第8回理事会、災害時の対応・体制に関する委員会郡市会担当者及び三重県警察医合同会議、歯科診療情報の標準化に関する講演開催



Mie Dental Association

- 8日 第35回全国歯科保健大会が大阪府で開催され田所会長、羽根常務理事、伊東理事出席
- 9日 第39回睦寿会総会・親睦会開催
- 13日 平成26年度生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業における研究発表会が尾鷲市で開催され中井副会長出席
- 15・16日 第31回日本障害者歯科学会総会及び学術大会が宮城県で開催され齋藤障害者歯科センター長出席
- 16日 第9回三重子どものころネットワークに中井副会長出席
オレンジまつりに福森理事、長谷川公衆衛生委員出席
- 17日 平成26年度三重県医療安全推進協議会に桑名理事出席
平成26年度第3回三重県医療審議会健やか親子推進部会に羽根常務理事出席
- 18日 東海信越地区歯科医師会会長会議が東京都で開催され田所会長出席
- 19日 三重県社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会に羽根常務理事出席
- 20日 第58回三重県学校保健安全研究大会が御浜町で開催され中井副会長、羽根常務理事、福森理事、伊東理事、浜瀬理事、県歯会公衆衛生委員出席
- 21日 平成26年度三重県年金委員・健康保険委員大会に羽根常務理事出席
- 24日 第2回地域包括ケア歯科医療従事者養成講座開催
- 26日 平成26年度第4回保健指導推進会議に福森理事出席
- 27日 平成26年度松阪地区第1回地域8020運動推進協議会、平成26年度南勢志摩地区第1回地域8020運動推進協議会、特定社保講習会開催
三重労働局雇用機会均等室へ辻副会長、桑名理事、伊藤理事訪問
松阪地区歯科医師会社保講習会に大杉常務理事、稲本理事出席
- 29日 第12回フォーラム8020が東京都で開催され羽根常務理事、浜瀬理事出席

三重県歯科医師協同組合

購入希望の組合員の方は、当組合宛にお申し込み下さい。

三重県歯科医師協同組合ホームページからオンラインでも購入できます。

歯科経理帳	(12か月分)	950円
収支日計表	(100枚綴)	620円
患者日計表	(100枚綴)	620円
領収書	(100枚綴)	470円
その他、保険診療情報提供文書各種等		



会員消息

Member's News

本会会員数 (12月1日現在)

正会員第1種 (一般)	708名
正会員第2種 (勤務)	29名
正会員終身	128名
準会員第3種 (法人)	8名
準会員第4種 (直属)	2名
長期の疾病等の会員	1名
計	876名

日歯会員数 65,167名 (10月31日現在)

FAX番号変更

中村行邦先生 (伊勢)
(診) FAX 0596-65-6211

診療所廃止

浜口幸洋先生 (伊勢)

湯村昌倫先生 (伊賀)

新入会員



ふかみずようすけ
深水陽介先生 (11. 1 付)
診四日市市富田2-9-20
さらの木歯科
電話 059-365-1344
FAX 059-364-5185
(四日市)



べっしょふみひろ
別所史博先生 (11. 1 付)
診津市南河路660-2
べっしょ歯科クリニック
電話 059-271-8217
FAX 059-271-8218
(津)



成田實乃先生 (津)
去る10月2日、お亡くなりになりました。
享年94歳



塚沢利明先生 (津)
去る10月22日、お亡くなりになりました。
享年71歳

診療所所在地・診療所名変更

深水征人先生 (四日市)
四日市市富田2-9-20
さらの木歯科



新入会員プロフィール

Rookie's Profile

ふかみずようすけ

深水陽介先生（四日市）

1. 学歴

高校 私立暁高等学校

大学 東京歯科大学（平成12年度卒業）

2. 卒業後の研修先・勤務先

平成13年 4 月 東京歯科大学附属病院

平成14年 4 月 医）博山会 沼澤歯科

平成17年 4 月 医）博山会

博山歯科クリニック

平成19年12月 深水歯科医院

3. 開業年月日

平成26年11月13日

4. メッセージ

今回、入会させていただくことになり、会員としての務めを全うしていききたいと思います。

大学時代は軟式テニス部に所属し、そこで多くの事を学ぶ機会を得ました。

卒業後は、歯科医療の面白さ・深さを知り色々と講習会などで学びました。学べば学ぶ程、自分の至らなさに気づきます。

まだまだ若輩者でございますので、ぜひ歯科医師会の諸先輩方の御指導、御鞭撻をよろしくお願いいたします。

べっしょふみひろ

別所史博先生（津）

1. 学歴

高校 私立高田高等学校

大学 徳島大学歯学部（平成 8 年度卒業）

2. 卒業後の研修先・勤務先

平成 9 年 4 月 医療法人岡田歯科

平成22年 5 月 医療法人佐藤歯科医院

3. 開業年月日

平成26年11月 1 日

4. メッセージ

同じフィールドに立つもの同士にしかわからない悩みや相談をしたり、助けあっていたりというようなことができる会員になりたいと思っております。地域に根付き、なにかあれば頼りになる診療所にしていきたいと思っております。

趣味は、釣りや音楽、カメラ、テニス、と

いろいろありますが、大学時代はテニスサークルと軽音楽部でした。今は海で釣った魚を食べるたびに、三重県の魚のおいしさに感動し、三重県出身でよかった、と感じております。今後共、どうぞよろしくお願いいたします。





告知板

Information

平成26年度 介護予防講演会

「いつまでも自分のお口で安全に 食べよう」



講演1 「のみ込みと健康とのかかわり」



講師：桑名西医療センター歯科口腔外科部長
大重 日出男 先生

【主な資格】日本口腔外科学会専門医・指導医、日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士

講演2 「お口の中のガンはあなたをこうむしばむ」



講師：愛知学院大学歯学部 顎顔面外科学講座 准教授
深野 英夫 先生

【主な資格】日本口腔外科学会認定専門医・指導医、日本がん治療認定医機構 暫定教育医

○ 講演会での併設

（一社）桑員歯科医師会、（NPO法人）三重県歯科衛生士会桑員支部、桑員地区歯科技工士会

＜お口いきいきコーナー＞（12時～13時30分、16時から17時）

- ・口臭測定
- ・お口の中の細菌測定
- ・舌圧測定
- ・お口の湿潤度測定
- ・お口の体操教室
- ・かぶせもの、入れ歯のできるまで
- ・入れ歯作製実演
- ・お口の相談コーナー
など



平成27年3月15日（日）
午後1時30分開演（午後1時開場）
桑名市民会館 小ホール

手話通訳・磁気ルーフ
要約筆記あり

入場無料
申込不要

主催・問合せ先

桑名市役所中央地域包括支援センター
一般社団法人桑員歯科医師会

電話0594-24-5104
電話0594-22-3517



会員の広場

Member's Plaza

第39回睦寿会総会・親睦会開催

平成26年11月9日（ホテルグリーンパーク津）

11月9日(日)、ホテルグリーンパーク津で第39回睦寿会総会並びに親睦会が開かれました。25年度末に終身会員に関する規則が改正されたため、今年度の睦寿会への入会はありませんでしたが、会合には昨年を超える18名の睦寿会会員が出席しました。

総会では芝田専務理事が進行を務め、冒頭の挨拶に立った田所会長は、社会の超高齢化により歯科医師及び歯科医師会に求められる役割が変わりつつあることや、日歯・大久保会長が今期限りで勇退する意向を表明したこと等を報告。田中勇雄顧問（桑員）からは出席者に対して感謝の意が示されました。

親睦会は浜瀬理事が司会を務め、中井副会長の開会の挨拶に続き中藤監事による乾杯の発声で開宴。今年で103歳になられた鈴木長八郎先生をはじめ、お元気な会員方はおいしい食事に舌鼓を打ち、お酒も交えながら懐かしい出来事や今に至るまでの話に花が咲き、楽しい2時間があったという間に過ぎてしまいました。最後に、辻副会長が閉会の辞を述べお開きとなりました。

(福祉厚生委員・山下知彦 記)





互助会の現況

(26年10月1日～31日)

第1部（疾病共済）

入会 0名 退会 1名 累計 743名

収入累計	190,926,089円	{	繰越	190,916,089円
			入金	10,000円

支 出 300,324円

残 高	190,625,765円	{	定期	118,000,000円
			普通	52,625,765円
			国債	20,000,000円

療養給付：1名

死亡給付：0名

第2部（火災・災害共済）

入会 0名 退会 1名 累計 751名

収入累計	158,749,311円	{	繰越	158,748,383円
			入金	928円

支 出 0円

残 高	158,749,311円	{	定期	110,690,000円
			普通	48,059,311円

(26年11月1日～30日)

第1部（疾病共済）

入会 1名 退会 0名 累計 744名

収入累計	190,626,089円	{	繰越	190,625,765円
			入金	324円

支 出 1,200,000円

残 高	189,426,089円	{	定期	118,000,000円
			普通	51,426,089円
			国債	20,000,000円

療養給付：1名

死亡給付：1名

第2部（火災・災害共済）

入会 1名 退会 0名 累計 752名

収入累計	158,749,723円	{	繰越	158,749,311円
			入金	412円

支 出 0円

残 高	158,749,723円	{	定期	110,690,000円
			普通	48,059,723円

平成26年6月診療分歯科診療報酬状況（三重県）

		社 会 保 険			国 民 保 険		
		1件当数 日 数	1日当数 点 数	1件当数 点 数	1件当数 日 数	1日当数 点 数	1件当数 点 数
一 般	本 人	1.8	641.1	1,140.0	1.9	644.6	1,202.2
	家 族	1.6	589.7	932.5			
後期高齢者医療		—	—	—	2.0	689.1	1,362.0

平成26年7月診療分歯科診療報酬状況（三重県）

		社 会 保 険			国 民 保 険		
		1件当数 日 数	1日当数 点 数	1件当数 点 数	1件当数 日 数	1日当数 点 数	1件当数 点 数
一 般	本 人	1.8	641.4	1,145.4	1.9	643.0	1,212.0
	家 族	1.6	592.2	941.0			
後期高齢者医療		—	—	—	2.0	679.5	1,350.4

保険医療機関・保険薬局 開設者のみなさまへ

厚生労働省では、保険医療機関等からの施設基準等の届出状況を把握させていただくため、毎年7月1日現在の状況等について、定例的に施設基準実施状況報告書の提出をお願いしているところです。

東海北陸厚生局においては、各保険医療機関等が報告に必要な報告様式をあらかじめ送付する方法をとらせていただいておりますが、「電子ファイルが入手できれば紙の送付は不要」「電子メールの活用」等のご意見が寄せられていることから、報告様式の事前送付の見直しを検討しています。

平成25年度の取り組み

平成25年度は、「病院」のみなさまには、当厚生局ホームページから報告様式をダウンロードしていただくようご協力いただくことにより、報告様式の送付を見送らせていただきました。

また、診療所・歯科・薬局のみなさまには、今後の対応を検討するにあたり、現状を把握させていただくため、報告様式の送付にあわせてインターネット環境に関するアンケートを実施しました。

その結果、全体の約7割の保険医療機関等において、「インターネット環境がある」とのご回答をいただきました。

平成26年度の取り組み

平成26年度は、東海北陸厚生局ホームページ上にメールアドレス等のメーリングリストにご登録いただくページを設けました。

今後、ご登録いただいたメールアドレス等のメーリングリストを活用し、当厚生局からの情報提供等を充実してまいります。

具体的な取り組みとして、①施設基準実施状況報告様式の電子データ送付、②定例報告等のご案内、③メールマガジンによる各種情報提供などを実施することとしておりますので、趣旨をご理解頂きメールアドレス等のご登録をお願いいたします。

※ ご登録いただいた情報は、利用目的の範囲内で適切に取り扱います。

東海北陸厚生局公式ホームページ

東海北陸厚生局

検索

トップページの「重要なお知らせ」⇒「保険医療機関等開設者の皆様へ」をご覧ください。



東海北陸厚生局

Tokai-Hokuriku Regional Bureau of Health and Welfare

三重県歯科医師 国民健康保険組合

MIE DENTIST NATIONAL HEALTH INSURANCE UNION

東海信越地区歯科医師国保組合役員連絡協議会、新潟で開催



10月4日(土)、ANAクラウンプラザホテル新潟で東海信越地区歯科医師国保組合役員連絡協議会が開かれ、三歯国保組合から武田理事長と熊谷常務理事、山根監事が出席した。協議会に参加し

た東海信越6県のうち、愛知・岐阜・三重の3県は歯科医師国保を独自運営しているが、新潟・長野・静岡の3県は全国歯科医師国保組合(全国歯)に属しており、今回の会合には全国歯科医師国保組合連合会(全歯連)の小澤 孜会長と全国歯の尾上 徹会長も出席した。

協議では組合員の資格確認方法について各県が現状を報告。また、全国国保組合協会(全協)でも課題とされている国保組合共通システムの導入について各県が対応状況を報告し、同システムの問題点について全歯連として検討し、改善点を全協へ要望していくことで各県が一致した。

国保組合被保険者全国大会・国保制度改善強化全国大会

11月19日(水)に国保組合被保険者全国大会が、翌20日(木)には国保制度改善強化全国大会が開かれ、三歯国保組合から武田理事長と熊谷常務理事が出席した。19日(水)に永田町の憲政会館で開かれた国保組合被保険者全国大会では、主催の全協・阿部正俊会長が挨拶の中で、安倍首相が消費税10%への引上げ時期を1年半延長し、衆議院を解散する意向であることに触れ、国保組合への財政支援に影響が出ることに懸念を示すとともに、社会保障制度改革において国保組合が一つの枠組みの中で扱われるよう要望していく姿勢を示した。来賓として挨拶した伊吹文明衆議院議長らは、国民皆保険制度を含めた日本の社会保障を守っていく立場を強調した。厚労省保険局・中村博治国保課長は、国保組合に対する国庫補助の見直しについて、「現時点では検討項目、検討課題との位置

付けである」と説明した。翌20日(木)に日比谷公会堂で開かれた国保制度改善強化全国大会では、主催者を代表して挨拶に立った国保中央会・岡崎誠也会長(高知市長)が、経済の低迷や低所得者の増加等により被保険者の所得水準が低下していることや、市町村保険料(国保税)の負担率が高い構造的な問題、市町村格差等について触れ、構造的な問題を解決したうえで都道府県と市町村の役割分担を協議する必要性を訴えた。大分県九重町・坂本和昭町長が大会宣言を読み上げた後、9つのスローガンを全会一致で決議。また、消費税引上げ時期の延長に伴い、保険者支援制度1,700億円が先延ばしされることのないよう要望する特別決議案も併せて採択された。大会終了後、参加者は厚労省及び衆・参議員会館へ赴き、陳情活動を行った。

MIE DENTIST NATIONAL HEALTH INSURANCE UNION

平成26年 8 月／ 9 月

現況

保険給付状況

26年 8 月

		件 数	費 用 額	保険者負担額
療 養 給 付 費	当月分	3,432	52,892,446	37,471,078
	累 計	18,159	241,896,136	171,674,146
療 養 費	当月分	124		425,734
	累 計	513		1,780,211
高 額 療 養 費	当月分	20		942,697
	累 計	137		10,277,032
移 送 費	当月分	—		—
	累 計	—		—
出産育児 一 時 金	当月分	2		840,000
	累 計	15		6,300,000
葬 祭 費	当月分	1		80,000
	累 計	2		230,000
傷 病 手 当 金	当月分	17		852,000
	累 計	71		2,509,000

26年 9 月

		件 数	費 用 額	保険者負担額
療 養 給 付 費	当月分	3,542	51,452,128	36,586,723
	累 計	21,701	293,348,264	208,260,869
療 養 費	当月分	123		463,112
	累 計	636		2,243,323
高 額 療 養 費	当月分	23		1,173,314
	累 計	160		11,450,346
移 送 費	当月分	—		—
	累 計	—		—
出産育児 一 時 金	当月分	5		2,100,000
	累 計	20		8,400,000
葬 祭 費	当月分	1		150,000
	累 計	3		380,000
傷 病 手 当 金	当月分	7		366,000
	累 計	78		2,875,000

収支状況

26年度26年 9 月累計

区 分	金 額
歳 入 合 計	686,023,011
歳 出 合 計	450,768,228
収 支 差 引 残 高	235,254,783

26年度26年10月累計

区 分	金 額
歳 入 合 計	780,095,801
歳 出 合 計	540,107,235
収 支 差 引 残 高	239,988,566

被保険者異動状況

26年10月31日現在

区 分	被 保 険 者 数	前月との比較
組 合 員	2,736	△ 12
家 族	1,661	△ 13
計	4,397	△ 25

26年11月30日現在

区 分	被 保 険 者 数	前月との比較
組 合 員	2,719	△ 17
家 族	1,662	1
計	4,381	△ 16

編集後記

Editor's Note

最近内外で起きた出来事を振り返ると、広島の土砂災害や御嶽山の噴火、世界ではイスラム国の出現やエボラ出血熱等、新たな危機感を抱かざるを得ない話題が多かった印象を受けます。

そのような中で、三人の日本人研究者がノーベル賞を受賞したニュースは、私たちに大いに勇気づけてくれました。歯科の話題に目を向けると、近年多くのメディアで「歯と健康」「歯と認知症」といった歯や口の健康に関わる情報発信が目立つ

ようになっていると感じられます。日歯を中心とした粘り強い啓発活動が少しずつ実を結び始めているのではないのでしょうか。

広報情報委員会も様々な媒体を通じて情報を発信しているわけですが、会員や県民に有益な情報をしっかりと届けられているのか、自分たちの活動を常に検証していくことも必要だと感じています。

(広報情報委員・進士史明 記)



次に向かう
メカラになりたい。

お気軽にご相談ください。
《資産運用・住宅ローン・ビジネスローン》

百五銀行
FRONTIER BANKING

インターネットホームページ <http://www.hyakugo.co.jp/>

FRONTIER BANKING

2014年9月、 「損保ジャパン日本興亜」誕生！



損保ジャパン日本興亜

「株式会社損害保険ジャパン」と「日本興亜損害保険株式会社」は合併し、
「損害保険ジャパン日本興亜株式会社（略称：損保ジャパン日本興亜）」として、
2014年9月1日から新たなスタートをきりました。
私たちのこれからの取り組みに、どうぞご期待ください。

損害保険ジャパン日本興亜株式会社

三重支店 津支社
〒514-0004 三重県津市栄町 3-115
Tel.059(226)3011 <http://www.sjnk.co.jp>

会員好評受付中！

mint

三重インターネットサービス

ブロードバンドが未来をひろく！

mintはインターネットをトータルにサポートします。

<http://www.mint.or.jp/>

お問い合わせは

MDT 三重データ通信株式会社

TEL : 059-223-1818

E-Mail : info@mint.or.jp

Thinking ahead. Focused on life.



可搬式歯科用ユニット

Portacube

ポータキューブ

診療用途に合わせた2タイプ

診療用途に合わせて、トリートメント用ユニット Type Tと
ハイジニスト用ユニット Type H を用意しました。

Type T には、スリーウェイシリンジとマイクロモーター。
Type H には、バキュームシリンジと超音波スケーラーを
搭載しています。



Type T

Type H

発売 株式会社 モリタ 大阪本社: 大阪府吹田市垂水町3-33-18 〒564-8650 TEL 06-6380-2525 東京本社: 東京都台東区上野2-11-15 〒110-8513 TEL 03-3834-6161
製造販売・製造 株式会社 モリタ製作所 本社工場: 京都府京都市伏見区東浜南町680 〒612-8533 TEL 075-611-2141 久御山工場: 京都府久世郡久御山町市田新珠城190 〒613-0022 TEL 0774-43-7594
販売名: ポータキューブ 標準価格: タイプT 900,000円～、タイプH 600,000円～(消費税別途) 2014年5月21日現在 一般的名称: 可搬式歯科用ユニット 機器の分類: 管理医療機器(クラスII) 特定保守管理医療機器 医療機器認証番号: 224ACBZX00043000
Morita Global Site: www.morita.com